

平成 27 年 6 月 29 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行  
 代表者名 代表取締役社長 工藤 英之  
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

## 男性社員のお小遣いは過去 2 番目に低い金額 -「2015 年サラリーマンのお小遣い調査」結果について

当行は、20 代から 50 代の有職者の男女約 2,300 名を対象にした「2015 年サラリーマンのお小遣い調査」を実施し、その結果を取りまとめました。

### 「2015 年サラリーマンのお小遣い調査」結果の主なポイント

- 男性社員のお小遣い額は 37,642 円と前年比 1,930 円減少。1979 年の調査開始以来、過去 2 番目に低い金額（最低額は 1982 年の 34,100 円）。
- 男性社員の昼食代は前年比 60 円増の 601 円。
- 男性社員の 1 回の飲み代は 4,954 円<sup>(※)</sup>と、自宅で飲む方の 2,861 円より 2,000 円以上高い結果に。
- 女性社員のお小遣い額は、前年比 2,244 円減少し、34,468 円。
- 消費税の負担を感じる人は、男性社員で 78.2%、女性社員で 84.9%と消費税の 8%へのアップ直後の前年より上昇し、過去最高。

### ■ お小遣い額は過去 2 番目に低い金額

男性社員の毎月のお小遣い額は昨年より 1,930 円減少し、37,642 円と 1979 年の調査開始以降 2 番目に低い金額となりました（最低額は 1982 年の 34,100 円）。年代別では、20 代、30 代はほぼ昨年水準を維持したものの、40 代、50 代は 4,000 円以上の減額となり、養育費・教育費などの家計への負担感がお父さんのお小遣いを直撃したものと考えられます。

### ■ お小遣いは減るも、昼食代は 3 年連続上昇

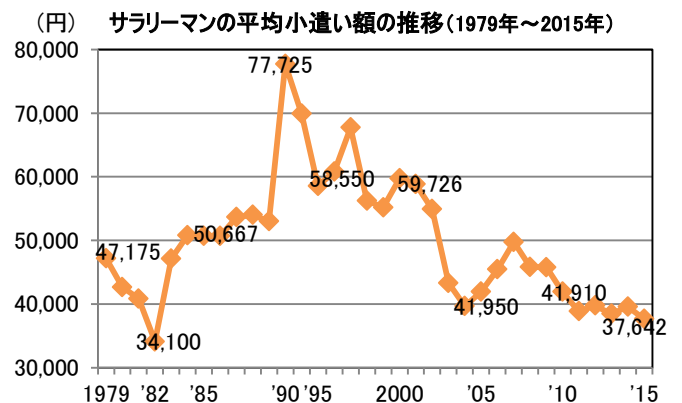
お小遣い額は減少したものの、男性社員の 1 日の平均昼食代は、昨年の 541 円から上昇し 601 円となりました。これは消費税や物価の上昇によって、外食などの値上げが広がったことによるものと考えられます。

### ■ 男性社員の 1 回の飲み代は、外に飲みに行く方が 4,954 円、自宅で飲む方が 2,861 円

男性社員の 1 回の飲み代は 4,954 円<sup>(※)</sup>と、自宅で飲む方の 2,861 円より 2,000 円以上高い結果になりました。1 カ月の平均飲み回数は、昨年と同じく 2.4 回でした。年代別にみますと、30 代・40 代が昨年より減っているなか、20 代が回数を増やしているのが特徴です。

### ■ 消費税の負担感は過去最高

2014 年 4 月 1 日に 8%に引き上げられた消費税率については、男性社員では、負担に感じている層が 78.2%と、昨年より 5.2%上昇、消費税 3%導入時の 1989 年や、8%への増税直後である昨年よりも高く、負担感は過去最大となりました。女性社員では、負担に感じている層が 84.9%と、男性よりも負担に感じている方が多いようです。また、男性同様に、負担に感じている層は昨年より上昇している結果となりました。物価の上昇による家計、ひいてはお小遣いへの負担が、消費税に対する負担感にも反映されているとみられます。



本調査の詳しい調査結果については、別添「2015 年サラリーマンのお小遣い調査詳細レポート」をご参照ください。

<sup>(※)</sup>1 回の平均の飲み代は、2014 年調査から算出方法を変更しています。詳しくは詳細レポート 15 ページをご参照ください。

以上

2015年  
サラリーマンのお小遣い調査  
詳細レポート

## 2015年 サラリーマンのお小遣い調査概要

景気は回復傾向にあるものの、  
男性会社員のお小遣い額は過去2番目に低い金額  
ランチ代は3年連続で上昇に

- 景気は回復傾向にあるものの、男性会社員の平均お小遣い額は37,642円と前年比1,930円減少。1979年の調査開始以来、過去2番目に低い金額(最低額は1982年の34,100円)。20代・30代は昨年とほぼ同水準だが、40代・50代が昨年から4千円以上減額となり、世代間の格差が縮まった。
- 男性会社員の1日の昼食代は前年比60円上昇し、601円。消費税や物価の上昇の影響とみられる。
- 男性会社員の1回の飲み代は4,954円<sup>(※)</sup>と、自宅で飲む方の2,861円より2,000円以上高い結果に。
- 女性会社員の平均お小遣い額は、前年比2,244円減少し、34,468円。正社員比率の高い20代・30代がけん引。昼食代は前年比154円増の666円。1回あたりの飲み代は4,082円と、自宅で飲む方の2,291円より金額にひらきがある。いずれも男性会社員と同じ傾向。
- 消費税の負担を感じる人は、男性会社員で78.2%、女性会社員で84.9%と消費税の8%へのアップ直後の前年より上昇し、過去最高。

**(※)1回の平均の飲み代は、2014年調査から算出方法を変更しています。詳しくは15ページをご参照ください。**

## <2015年 調査結果について>

### ■ 2014年度の景況

消費税率の5%から8%への引き上げでスタートした2014年度。安倍首相が推し進める経済成長政策(アベノミクス)が2014年度も進展し、年末に行われた第47回衆議院選挙は自民党が大勝するなど、アベノミクスが国民にも支持された結果となりました。

経済面では安倍政権による経済成長政策と日本銀行の黒田総裁による金融緩和の後押しにより日本の株価は引き続き上昇し、日経平均株価は2014年度末には19,206円99銭と昨年度末(2014年3月末の日経平均株価14,827円83銭)から約3割上昇、企業の決算も、株高に加え、円安や原油安など外部環境の後押しもあり、輸出比率が高い製造業の大企業を中心に過去最高益を達成するなど好決算となりました。企業決算の好調を反映してか、厚生労働省が発表した「毎月勤労統計調査 平成26年分結果確報」によると、平成26年の一人あたりの平均月間現金給与総額は、規模5人以上で前年比0.8%増の316,567円と対前年比で4年ぶりの増加となりました。一方で実質賃金は-2.5%となり、賃金は上がっているものの物価などの上昇には追いついていない状況が明らかになりました。

また2015年度の見通しとしては、連合が5月28日に、2015年春闘の中間集計結果(5月11日時点)を発表し、賃金を底上げするベースアップ(ベア)実施額は、ベアと定期昇給の区別可能な1815組合の平均で2,037円となり、引き上げ率は0.67%で前年同時期(0.49%)を上回る結果となるなど、2014年度から引き続き、2015年度もサラリーマンの賃金自体は上昇が見込めるものと考えられます。

### ■ 2015年サラリーマンのお小遣い調査

2015年の「サラリーマンのお小遣い調査」は、しかしながら、前年の39,572円から1,930円減少して37,642円と、1979年の調査開始以来、過去2番目に低い金額(最低額は1982年の34,100円)となりました。年代別にみると、20代、30代はほぼ昨年水準を維持しているものの、40代、50代は4千円以上の減額となりました。また、ライフステージ別にみた場合、未婚者が最も高く43,000円を超え、既婚者で子どもがいない世帯ではほぼ40,000円程度となる一方、子どもがいる世帯は30,000円前後と、約10,000円の差が開きました。子育て世代のお小遣いが低いことから、養育・教育費の家計への負担感が読み取れる結果となりました。

会社員のお小遣いの使いみちとしてトップを占める一日の昼食代は、男性会社員の場合で昨年の541円から60円上昇し601円となり、年代別にみると50代を除くすべての世代で昼食代がアップする結果となりました。

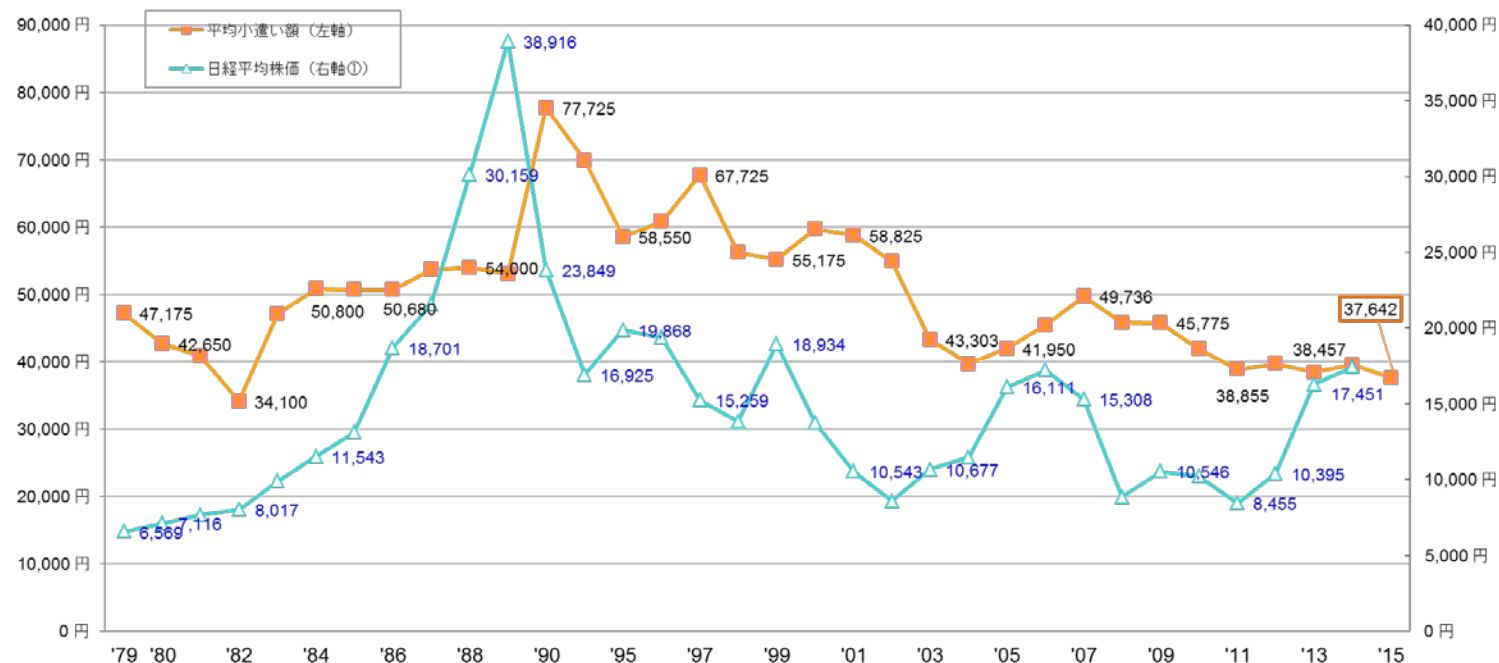
2015年の特徴としては、経済環境や企業業績の好転により一定の収入アップ\*は果たせたものの、消費税率のアップや円安による輸入食材等の高騰、またそれに伴う外食などの値上げが広がったことなどにより、実質的な賃金が減少\*し、家計が圧迫されたことが伺えます。とくに消費税の負担感については、男性会社員では負担に感じている(「大変負担を感じている」+「少し負担を感じている」)層が78.2%と、昨年より5.2%上昇し、消費税3%導入時の1989年や8%への増税直後である昨年よりも高く、負担感は過去最高となりました。消費税率のアップから1年が経過し、増税が日々の生活の中で実感され、お小遣いにも影響が出たと推察できます。

2015年の調査では、昨年に続いて20代から50代までの女性会社員の調査を実施するとともに、ライフステージ(未婚・既婚・子どもの有無)別でも集計を行い、より生活スタイルの変化による会社員のお小遣い動向を把握できるようにしています。

\*厚生労働省「毎月勤労統計調査 平成26年分結果確報」より



## 日経平均株価とサラリーマンの平均お小遣い額の推移 (1979年～2015年)



- 1978年以前と、1991年及び1993年、1994年については調査を実施していません。
- グラフ中の日経平均株価は、年次データの終値を表記しています。

## 【1】サラリーマンのお小遣い

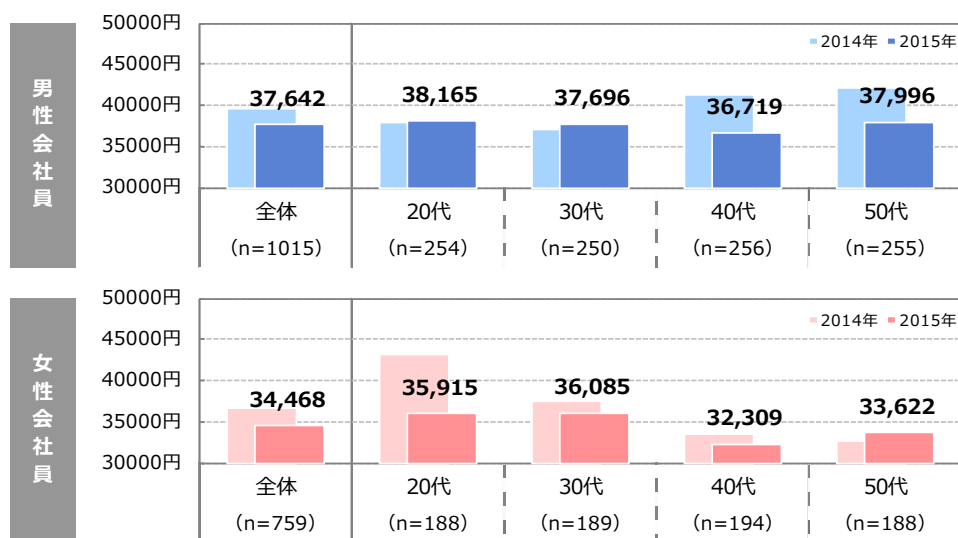
- ▶ 男性会社員の平均お小遣い額は37,642円と前年比1,930円減少し、過去2番目に低い金額
- ▶ 20代・30代は昨年と同水準も、40代・50代で4千円以上減少し、世代間の格差が縮まった
- ▶ 未婚者が最も高く4万円を超え、既婚者でも子どもがいない世帯ではほぼ4万円程度的一方、子どもがいる世帯は3万円前後にまで下がる傾向に
- ▶ 女性会社員も前年から減少し34,468円。男性会社員より3,174円低い

### ■ 月の平均お小遣い額

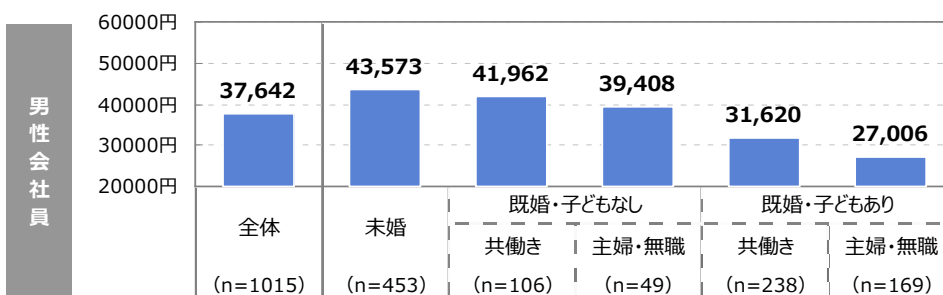
男性会社員の月の平均お小遣い額は、昨年の39,572円から1,930円減少して、37,642円となりました。1979年の調査開始以降、過去2番目に低い金額です(最低額は1982年の34,100円)。年代別にみると、20代・30代は、ほぼ昨年の水準を維持していますが、40代・50代は、昨年から4千円以上減額となり、世代間の格差が縮まりました。

女性会社員においても、男性会社員同様に、お小遣い額は昨年から2,244円減少し、34,468円となりました。年代別にみると、20代・30代は3万円台半ばであるのに対し、40代・50代は3万円台前半と、ややお小遣い額に開きが見られます。その背景には、若年層の方が正社員比率が高く、そもそもの収入が高いことが影響していると考えられます。

設問：あなたの一か月の“お小遣い”はいくらですか？(昼食代含む)



また、男性会社員の平均お小遣い額をライフステージ別にみると、未婚者が最も高く4万円を超えています。既婚者でも、子どもがいない世帯ではほぼ4万円程度の額ですが、子どもがいる世帯になるとその差は大きく、3万円前後にまで引き下がります。子育て、教育費の家計への負担感が読み取れる結果となりました。

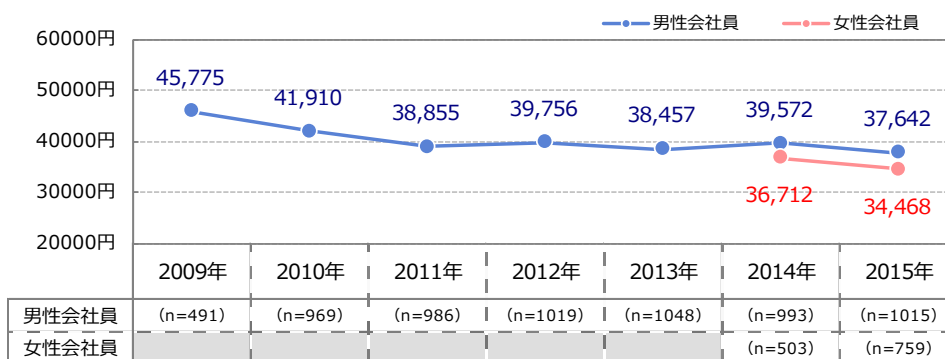




男性社員における直近のお小遣い額の傾向は、減少傾向が2011年で下げ止まり、以降は3万円台後半の額を維持しています。2015年は昨年からは、2千円近く減少しましたが、マクロな視点で見ると直近は大きな変化がないと捉えられます。

女性社員については、昨年との比較のみとなりますが、男性社員と同様に昨年からは減額となりました。ただし、男性社員の傾向から推測すると、この減額はさほど大きな変化ではないと推測できます。

■ 平均お小遣い額の時系列推移(2009年～2015年)

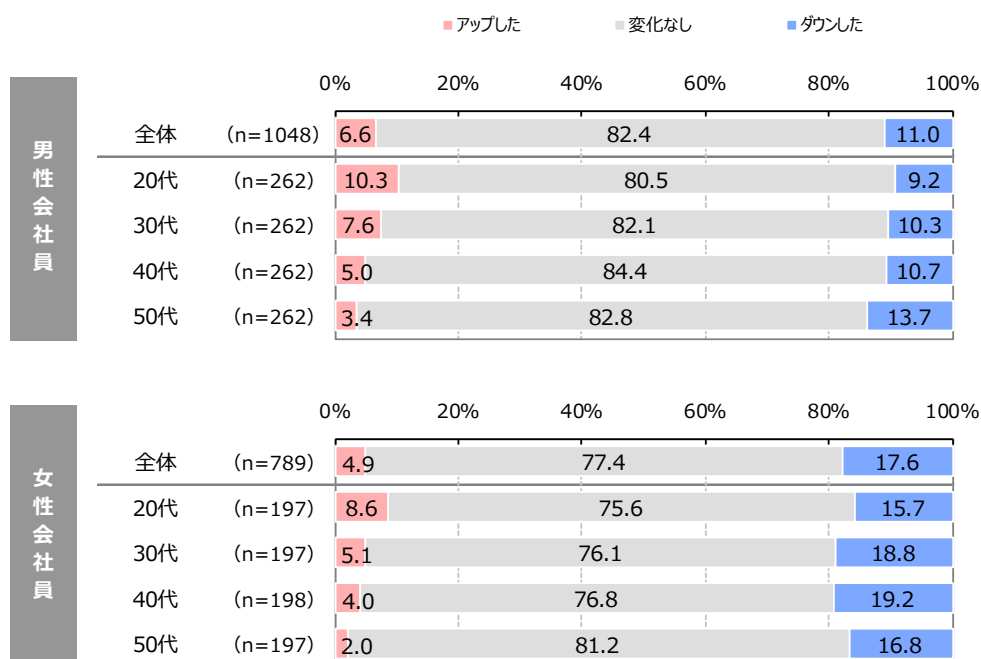


## ■ お小遣い額の変化

男性社員では、この1年でお小遣い額に変化があった方は限定的で、多くが「変化なし」という結果でした。変化があった方では、「アップした」が6.6%、「ダウンした」が11.0%と、減額された方の方が多くなっています。年代別にみると、若年ほど「アップした」の割合が高まり、20代では10.3%に達しています。それに反比例し、「ダウンした」の割合は、年配ほど高くなる傾向となりました。

女性社員についても、多くが「変化なし」という結果は、男性社員と同様です。また、「アップした」の割合が若年ほど高い点も、男性社員と共通していますが、「ダウンした」割合は年代による差はなく、一定数のボリュームがあります。なお、「ダウンした」層は、男性に比べてやや高い傾向となっています。

設問：この一年(2014年4月～2015年3月)の間に、あなたの“お小遣い”はどのように変化しましたか？



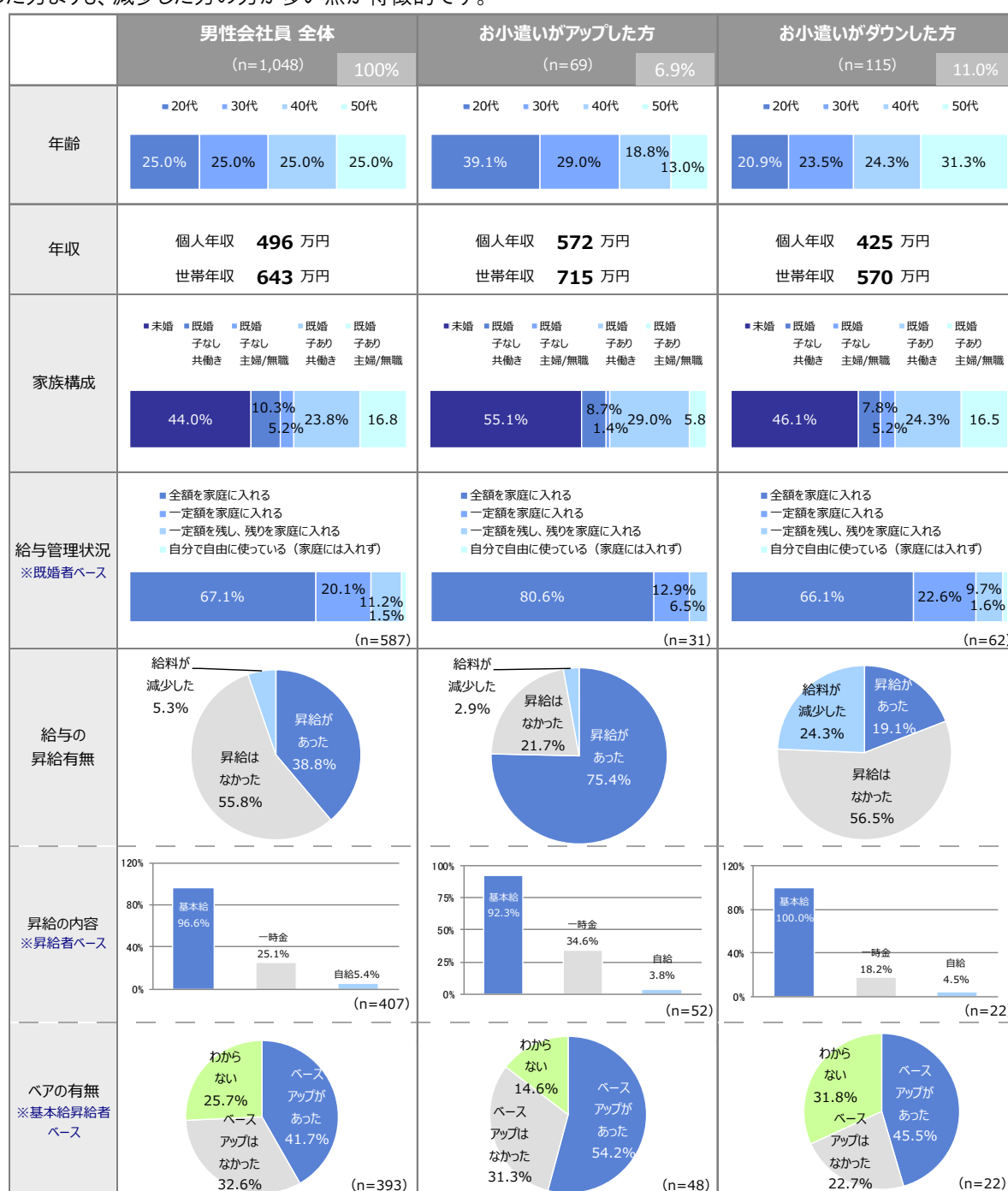


## ■ お小遣いに変化があった方のプロフィール

男性社員のこの一年でお小遣いがアップした方(6.9%)とダウンした方(11.0%)のプロフィールを、男性社員全体と比較したものが以下となります。ここから、お小遣いに変化があった方がどのような方なのかを確認します。

まず、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が39.1%を占め、やや若年層寄りの傾向がみられ、家族構成では未婚者が過半数をしめています。年収では、個人年収、世帯年収ともに全体より高く、特に個人年収は全体と76万円の開きがあります。お小遣いがアップした方のうち、既婚者における給与管理状況をみると、全額を家庭に入れている方が80.6%を占め、全体に比べても高くなっています。また、4人に3人は、この一年で給与の昇給があったと回答しており、昇給があった方の割合(75.4%)は全体の約倍のスコアです。昇給があった方の中で、「基本給」の昇給があった方は92.3%で、その中でベースアップがあった方は54.2%にのぼります。

一方、お小遣いがダウンした方は、年齢は50代が31.3%で、やや高齢層寄りの傾向がみられます。また、給与の昇給があった方よりも、減少した方の方が多く点が特徴的です。

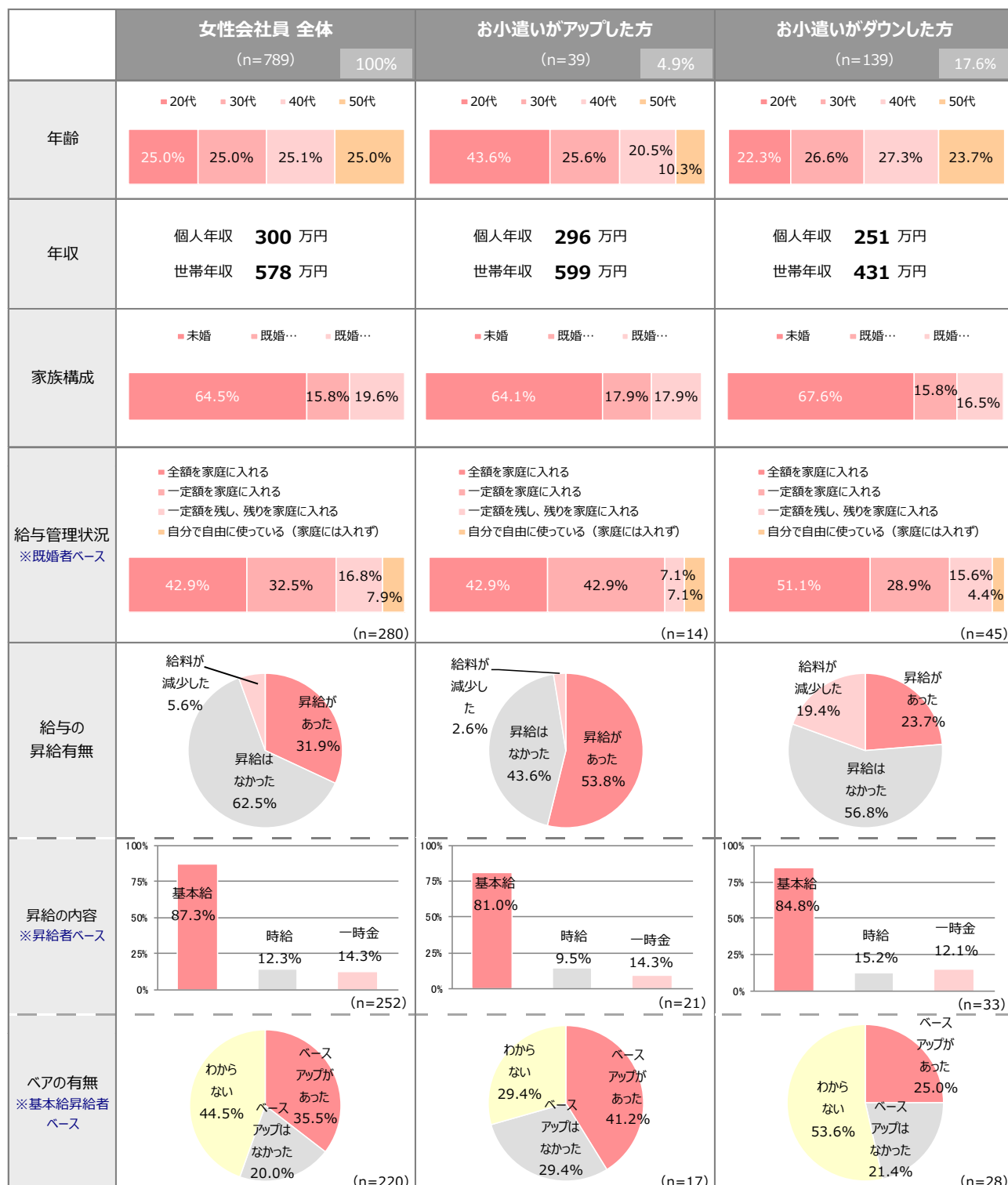


※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

女性会社員では、この一年でお小遣いがアップした方は4.9%、ダウンした方は17.6%と言う結果になりました。

まず、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が43.6%を占め、男性会社員の割合よりも若年層寄りの傾向がみられます。年収は、個人年収、世帯年収のいずれも全体との差はなく、特徴はみられませんでした。また、お小遣いがアップした方の53.8%が、この一年で給与の昇給があったと回答しており、昇給があった方の割合は全体よりも20%近く高いスコアとなっています。昇給があった方の中で、「基本給」の昇給があった方は81.0%で、その中でベースアップがあった方は41.2%を占めています。

一方、お小遣いがダウンした方は、年齢は全体と大きな差がみられませんでした。給与の昇給があった方は、23.7%に留まり、減少した方が19.4%と全体に比べて高い点特徴的です。



※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

## 【2】サラリーマンの昼食事情

- ▶ 男性会社員の昼食代は3年連続で上昇して601円
- ▶ 女性会社員も男性会社員同様、前年から154円上昇し666円
- ▶ 男性・女性会社員ともに持参弁当の割合が2年連続で増加
- ▶ 昼食にかかる時間では、男性会社員が22.5分に対し、女性会社員は30.1分と男性よりやや長い傾向

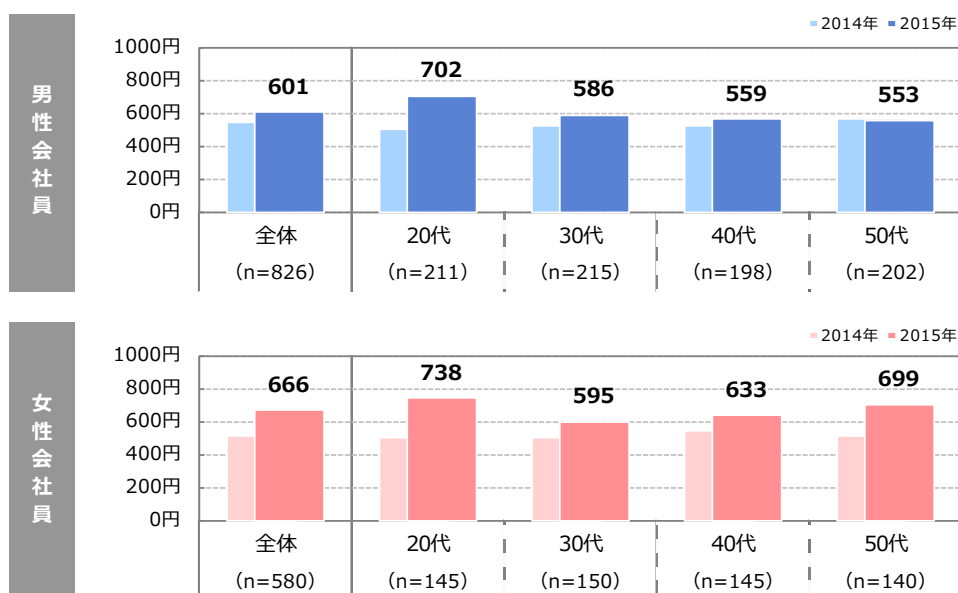
### ■ 一日の平均昼食代

男性会社員の一日の昼食代は、昨年の541円から60円上昇し、601円となりました。年代別にみると、20代が最も高く700円を超え、昨年からは200円以上高くなっています。一方、50代は553円と、唯一昨年から減額し、全体平均を下回る結果となりました。

女性会社員においても、男性会社員同様に、昼食代は昨年から上昇し(昨年512円から、154円の上昇)、666円となりました。年代別にみると、男性同様20代が最も高く、738円でした。また、いずれの年齢においても、男性に比べて女性の方がやや高い傾向がみられます。

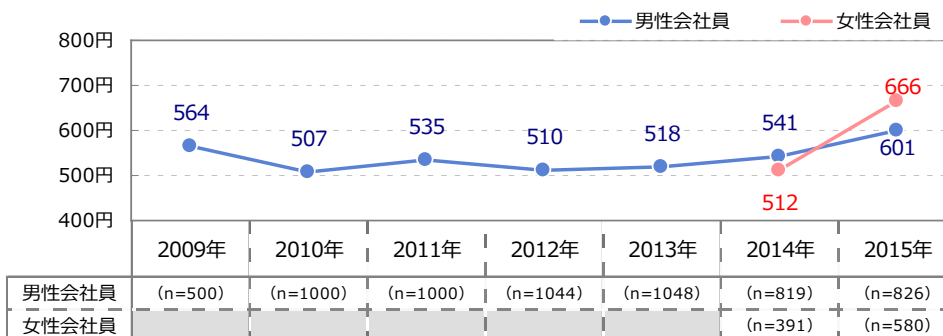
※昼食にお金をかけている方ベース

設問：あなたの昼食代(勤務日)は平均すると一回いくらですか？(弁当持参時を除く)



男性会社員における直近の昼食代の傾向は、2013年頃から徐々に上昇傾向がみられます。今年は600円台と、直近7年間で最も高い金額となりました。

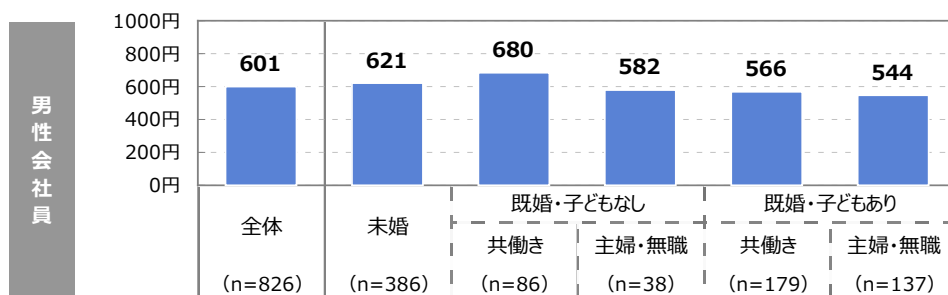
### ■ 平均昼食代の時系列推移(2009年～2015年)



また、男性会社員の一日の昼食代をライフステージ別にみると、DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)が最も高い金額となっています。ある程度収入もあり、配偶者も働いているため、昼食にかけられるお金に余裕があることが分かります。

※昼食にお金をかけている方ベース

設問：あなたの昼食代(勤務日)は平均すると一回いくらですか？(弁当持参時を除く)



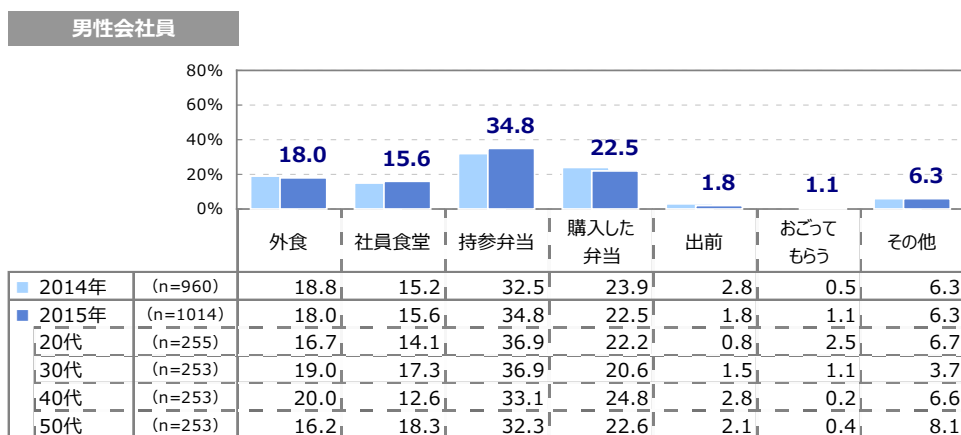
## ■ 昼食の内訳

男性会社員における、昼食の内訳トップ3は、「持参弁当」34.8%、「購入した弁当」22.5%、「外食」18.0%の順で、昨年より順位に変動はありませんでした。ただし、「持参弁当」の割合は、昨年に引き続き増加傾向にあります。

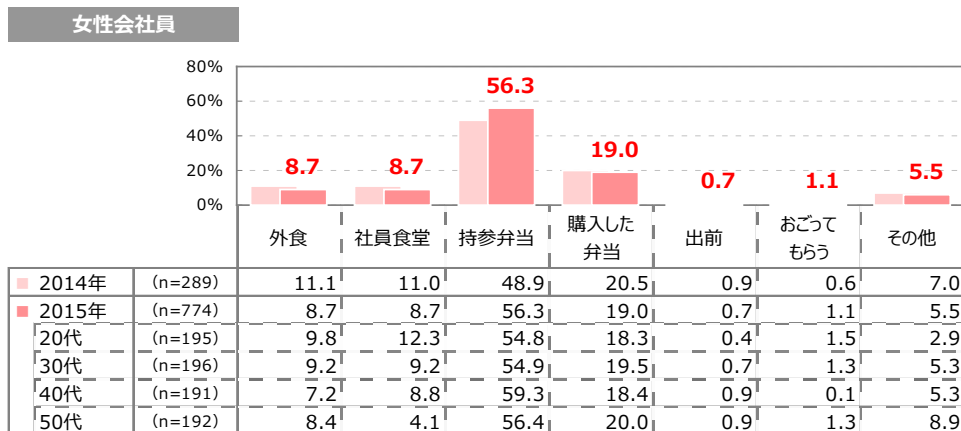
女性会社員では、「持参弁当」が56.3%と、男性よりも20%以上高い点が特徴です。また、男性同様に「持参弁当」の割合が増加しており、昨年より7%上昇しました。

※勤務中に昼食をとる方ベース

設問：あなたの平均的な一週間の昼食(勤務日)のそれぞれの回数の内訳を教えてください。



※昼食の回数の合計を100%として、それぞれの回数の割合を%で表示



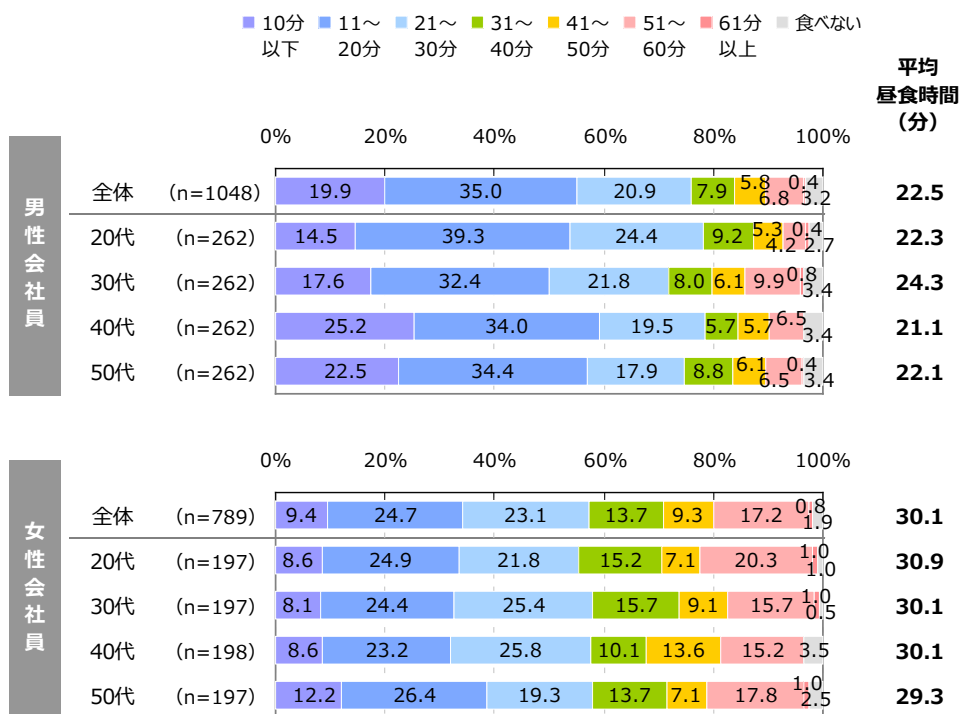
※昼食の回数の合計を100%として、それぞれの回数の割合を%で表示

## ■ 昼食にかかる時間

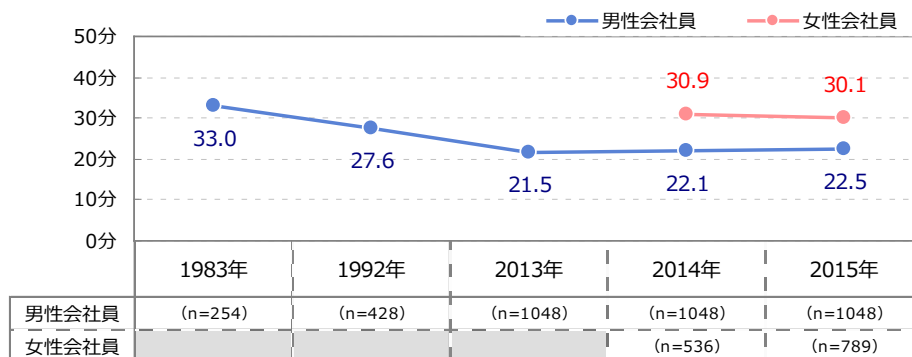
男性社員における、昼食にかかる時間のボリュームゾーンは「11～20分」で、35.0%を占めます。平均昼食時間は22.5分と、昨年とほぼ変わらない水準です。また、年代による大きな差はみられません。

女性社員においては、「11～30分」がボリュームゾーンとなっており、平均昼食時間は30.1分と男性よりやや長い傾向がみられます。また、「51～60分」との回答も一定数存在しており、きちんとランチタイムを1時間確保している様子が窺えます。男性同様に、年代による差はみられませんでした。

設問：昼食(勤務日)にかかる時間は平均して、どのくらいですか。



## ■ 平均昼食時間の時系列推移(1983年～2015年)



### 【3】サラリーマンの飲み事情

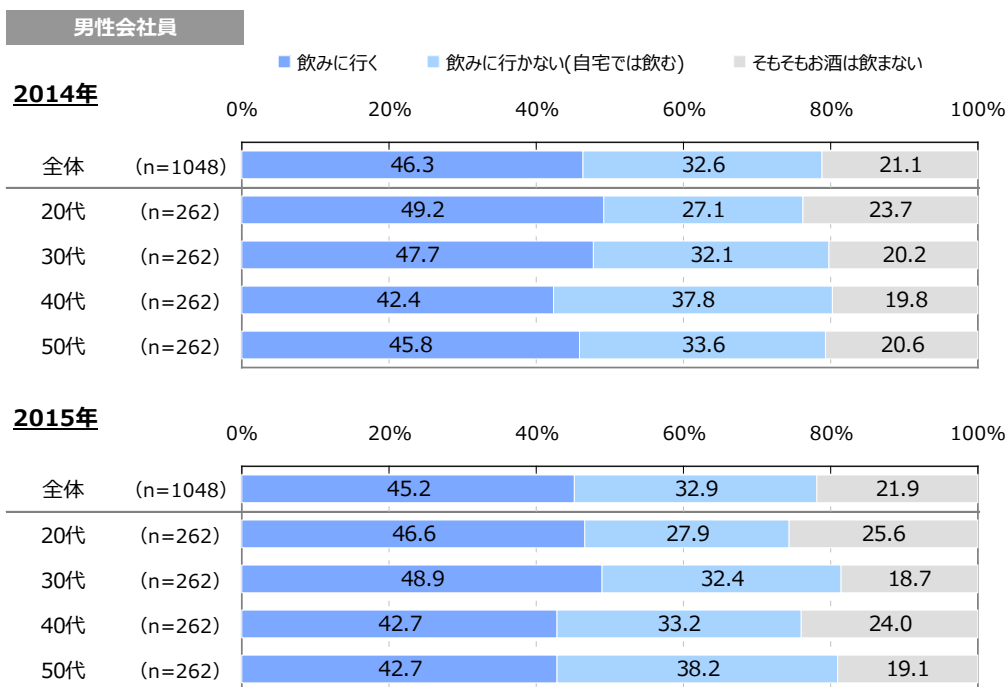
- ▶ 男性会社員の1回の飲み代は、外に飲みに行く方が4,954円、自宅で飲む方が2,861円
- ▶ 女性会社員の1回の飲み代は、外に飲みに行く方が4,082円、自宅で飲む方が2,291円
- ▶ 1カ月の飲み回数は、男性会社員は前年と同じく2.4回。女性会社員は昨年より0.1回増えて2.2回
- ▶ 1カ月の飲み代は、男性・女性会社員ともに前年から減少(※全体ベース比較、17ページ参照)

#### ■ 仕事後の飲酒状況と1回あたりの飲み代

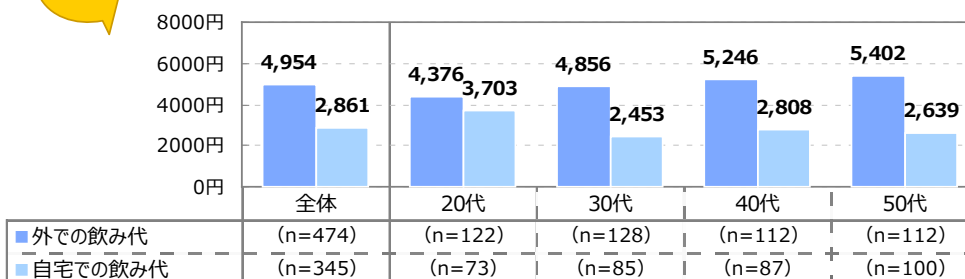
男性会社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が46.3%を占め、最も多い結果でした。外には飲みに行かないものの、「飲みに行かない(自宅では飲む)」層も32.6%を占めており、飲酒している方は78.9%にのびります。年代別にみると、20代・30代で外に飲みに行く割合がやや高くなっています。

外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代をみると、外に飲みに行くの方が2,000円以上高くなっています。外に飲みに行く方の1回あたりの飲み代は平均4,954円で、年代が高まるほど飲み代も上昇しています。一方、自宅で飲む方は、平均2,861円ですが、年代でみると20代が3,703円と最も高い金額となりました。

設問：仕事が終わった後、一カ月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？  
あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？

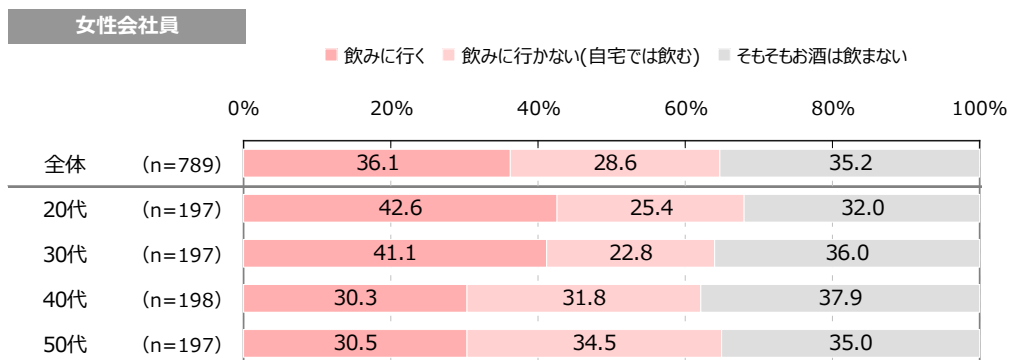


1回の平均飲み代は・・・？

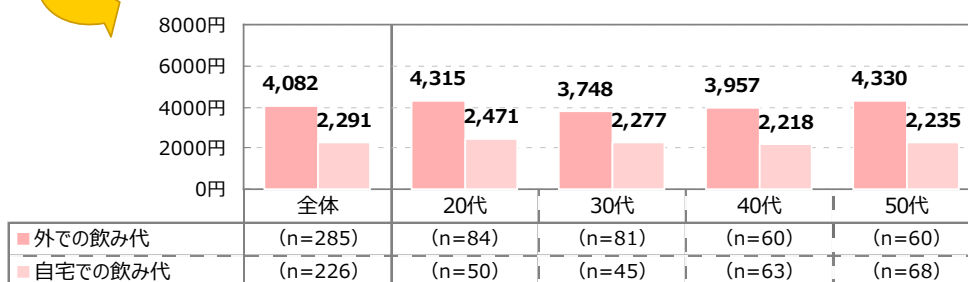


女性社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が36.1%を占め、最も多い結果でした。外には飲みに行かないものの、「飲みに行かない(自宅では飲む)」層も28.6%を占めており、飲酒している方は64.7%です。年代別にみると、20代・30代で外に飲みに行く割合が高く、40・50代とは10%の開きがあります。一方、40・50代は、自宅で飲む割合がそれぞれ31.8%、34.5%と20・30代よりも高いことから、30代と40代を境として、飲酒シーンが変わってくるのが分かります。

外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代をみると、外に飲みに行く方が平均4,082円、自宅で飲む方が平均2,291円と、男性同様に2,000円近くの開きがみられます。ただし、男性ほど年代による傾向差はみられず、外に飲みに行く方、家で飲む方に共通して、20代でやや高くなっているのが特徴です。



**1回の平均飲み代は・・・?**



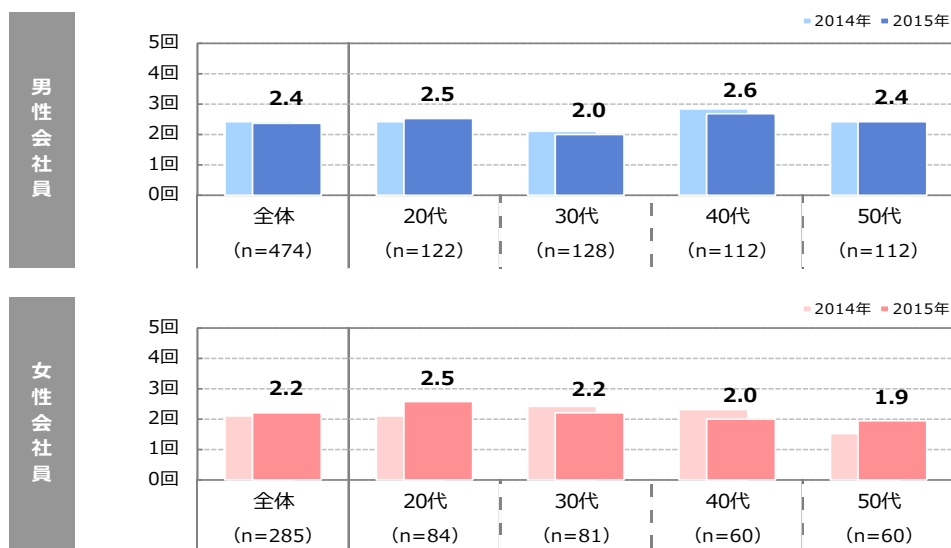


## ■ 1カ月の飲み回数 ※外に飲みに行く人ベース

男性社員の1カ月の平均飲み回数は、昨年と同じく2.4回、女性社員は昨年より0.1回増え2.2回となりました。

年代別で比較しますと、まず男女ともに30代、40代が昨年より減っているなか、20代が回数を増やしているのが特徴です。特に女性社員の20代、50代は昨年より0.4回も高い結果となりました。

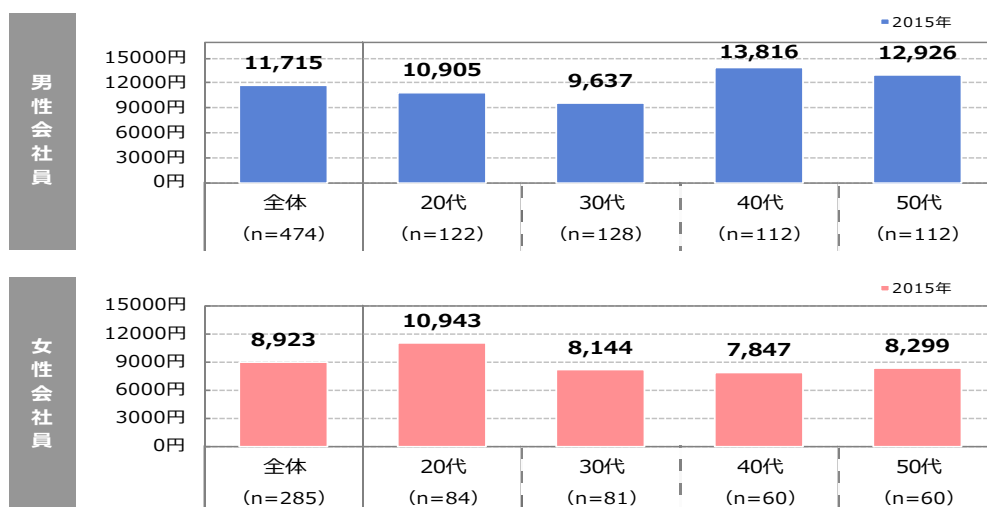
設問：仕事が終わった後、一カ月に平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？



## ■ 1カ月の飲み代 ※外に飲みに行く人ベース

1回の飲み代と1カ月の飲み回数から算出した男性社員の1カ月の飲み代は、11,715円となりました。年代別で比較しますと、40代・50代の方が20代・30代より高く、年齢が上がるにつれて、部下や後輩が増え、会社関係の飲み回でために支払うことが影響されているのではないかと思います。

女性社員は、男性社員より2,792円低い8,923円と言う結果になりました。20代が10,943円と女性では唯一1万円台で最も高いこと以外は、世代間で差は見られませんでした。

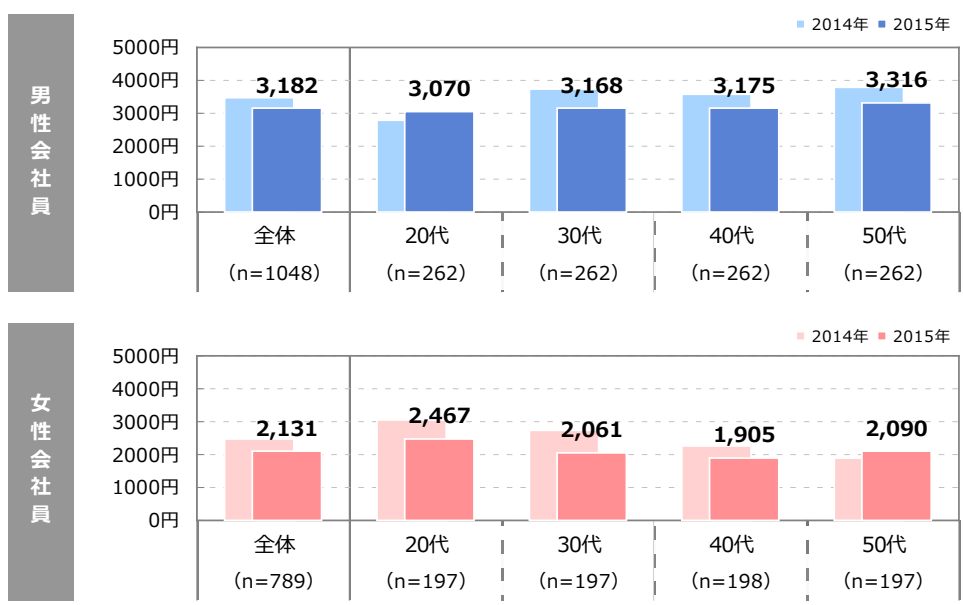


※本年度調査より、平均飲み代は「そもそもお酒は飲まない」と回答された方を除き、外に飲みに行かれる方と自宅で飲まれる方の2種類に分けて算出しております。また、昨年までと同じ算出方法である全体ベース(飲酒する方だけでなく、「そもそもお酒は飲まない」と回答した方もn数に含んで算出する方法)の1回あたりの飲み代および1カ月の飲み代は、p.16-17に掲載していますので、そちらをご参照ください。

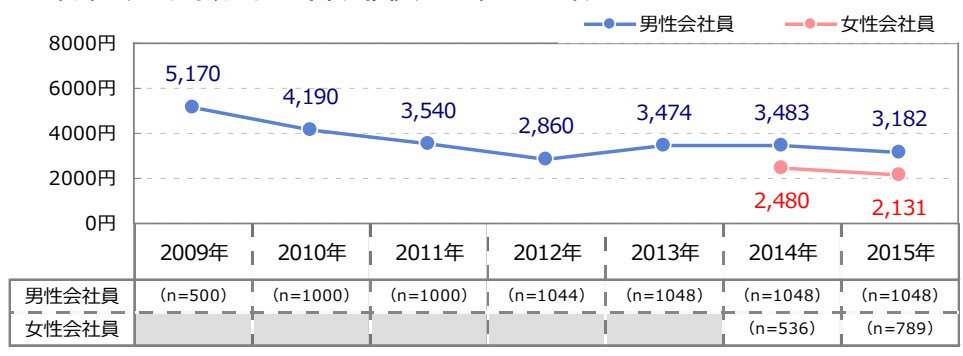
## ■ 参考:全体ベース<sup>(※)</sup>での1回あたりの平均飲み代

(※仕事後の飲酒状況で、「飲みに行く」「飲みに行かない(自宅では飲む)」と回答した飲酒している方だけでなく、「そもそもお酒は飲まない」と回答した方もn数に含んで算出する方法)

設問：あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？



## ■ 1回あたりの平均飲み代の時系列推移(2009年～2015年)

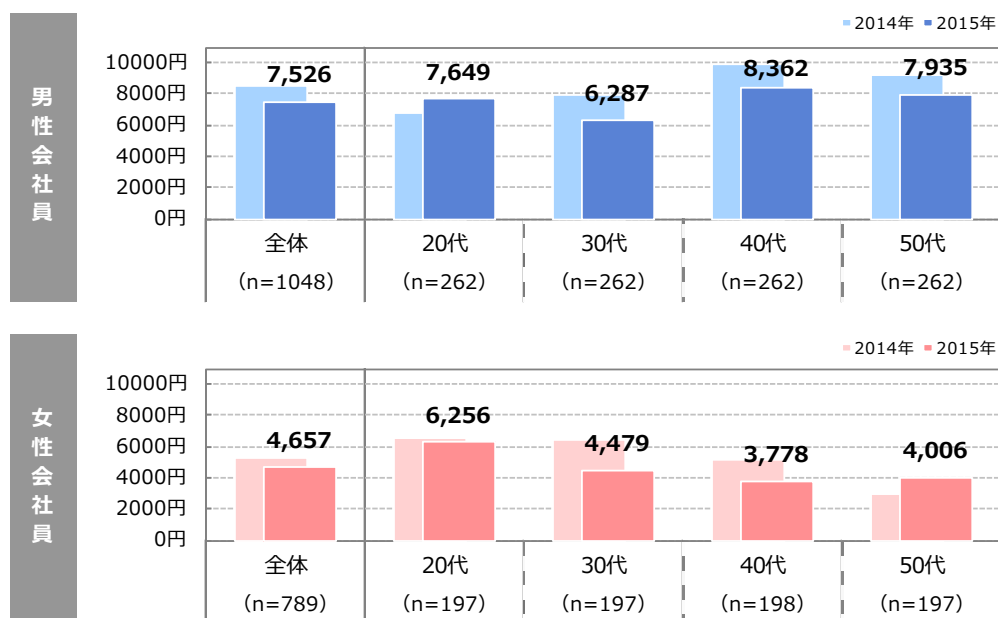


## ■ 参考:全体ベース<sup>(※)</sup>での1カ月の平均飲み代

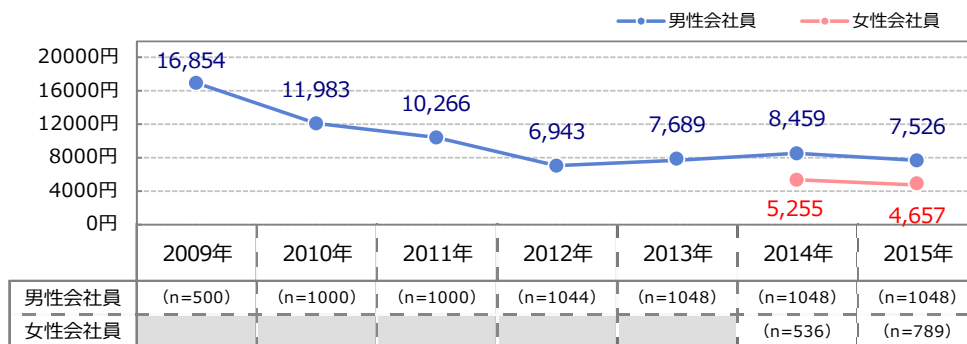
(※仕事後の飲酒状況で、「飲みに行く」「飲みに行かない(自宅では飲む)」と回答した飲酒している方だけでなく、「そもそもお酒は飲まない」と回答した方もn数に含んで算出する方法)

1回の飲み代と1カ月の飲み回数から算出した1カ月の飲み代は、男性社員が昨年よ933円下がり7,526円、女性社員も昨年より598円低い4,657円と言う結果になり、3年連続の上昇とはなりませんでした。

年代別では、20代男性社員と50代女性社員が昨年よりそれぞれ856円、1,109円上昇しています。20代女性社員は229円とやや低下した一方、その他の年代では男女ともに千円以上減少しています。



## ■【全体ベース】一カ月あたりの平均飲み代の時系列推移(2009年~2015年)



## 【4】消費税の負担感、経済的なゆとり

- 男性会社員では、消費税に負担を感じる人の割合が78.2%と昨年より5.2%上昇し過去最大
- 女性会社員では、消費税に負担を感じている人の割合が男性会社員より6.7%高い84.9%
- 『世帯年収』と『日常生活のゆとり』から、経済的なゆとりを確認した結果、未婚率の高い20代は、男性・女性会社員ともに「世帯年収低×ゆとりあり」層が2割前後と他年代よりも高い

### ■ 消費税によるお小遣いの負担感

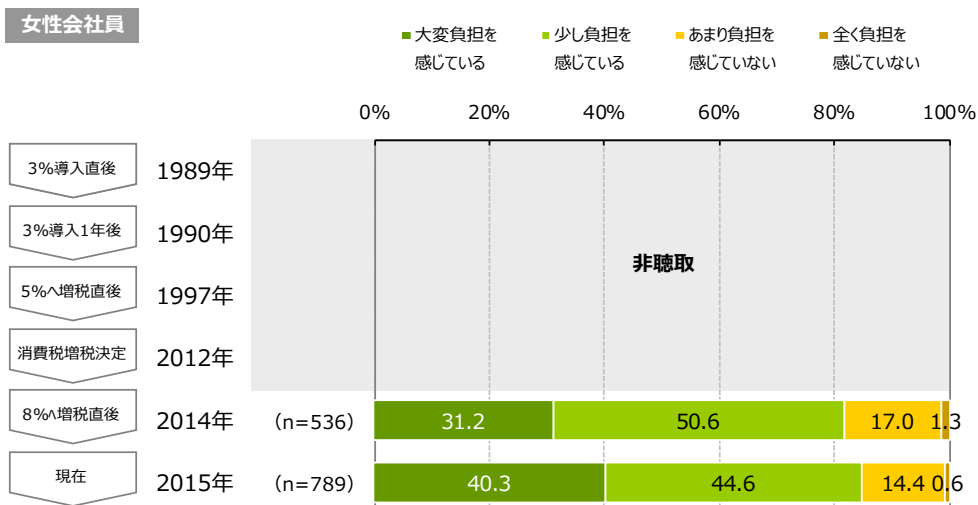
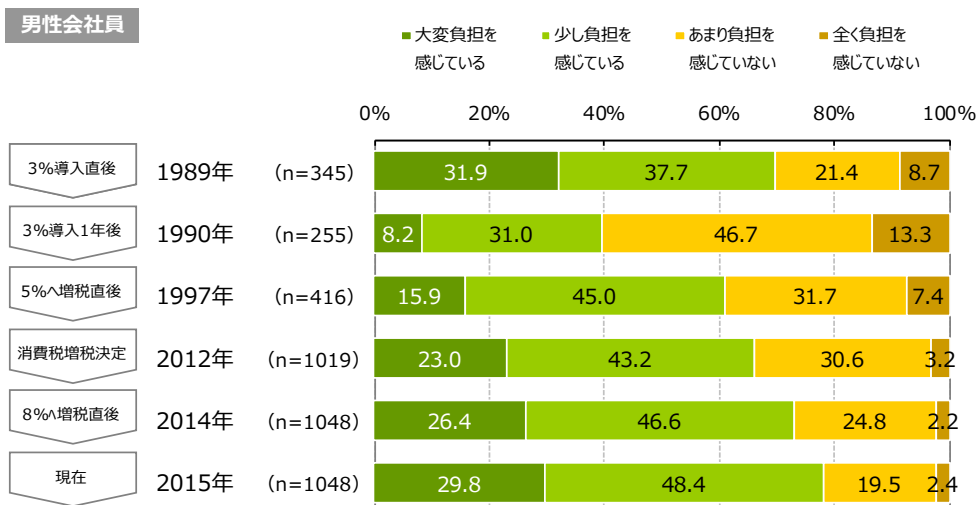
2014年4月1日より、消費税率が5%から8%に引き上げられました。増税から1年が経過した今回、お小遣い面での消費税における負担はどのように変化したのでしょうか。

男性会社員では、負担に感じている(「大変負担を感じている」+「少し負担を感じている」)層が78.2%と、昨年より5.2%上昇しています。消費税3%導入時の1989年や、8%への増税直後である昨年よりも高く、負担感は過去最大となりました。

女性会社員では、負担に感じている(「大変負担を感じている」+「少し負担を感じている」)層が84.9%と、男性よりも負担に感じている方が多いようです。また、男性同様に、負担に感じている層は昨年から上昇している結果となりました。

物価の上昇による家計、ひいてはお小遣いへの負担が、消費税に対する負担感にも反映されているとみられます。

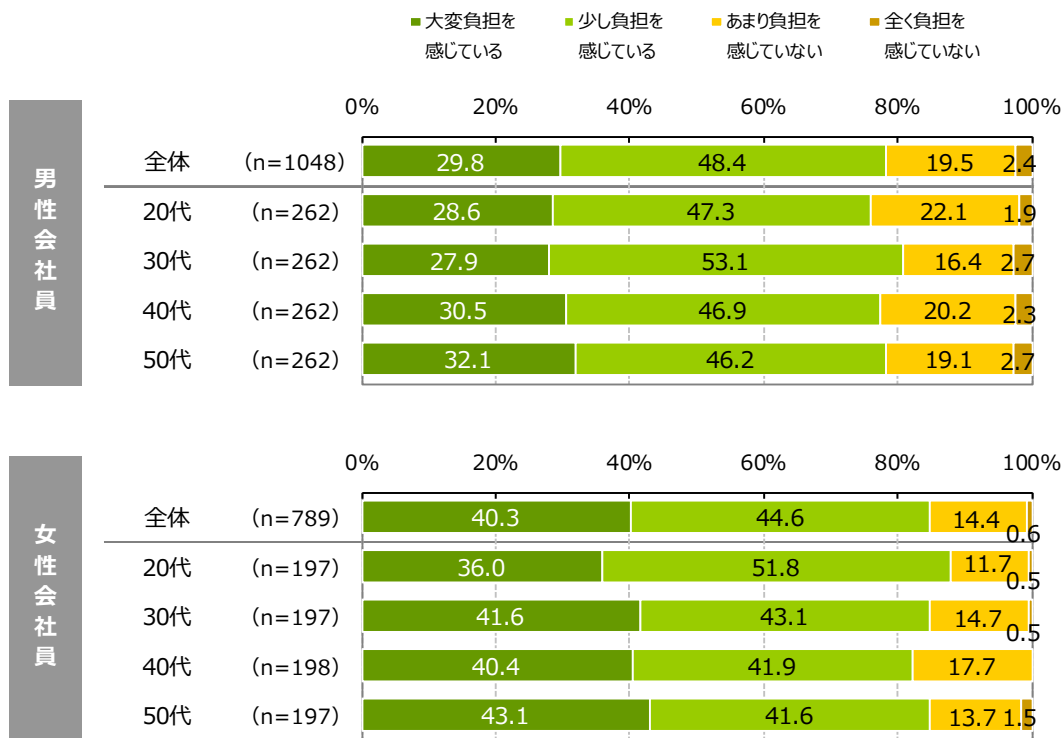
設問：あなたは、“お小遣い”の面で、消費税の負担を感じていますか。



男性社員における消費税の負担感を、年代別にみても、30代でやや負担感が高いものの、年代による大きな違いはみられませんでした。

女性社員では、20代でやや高い傾向がありますが、男性同様に、年代による大きな違いはみられません。なお、女性の方が、男性に比べて負担に感じている割合が高く、特に「大変負担に感じている」層が40.3%を占めている点が特徴です。

設問：あなたは、“お小遣い”の面で、消費税の負担を感じていますか。



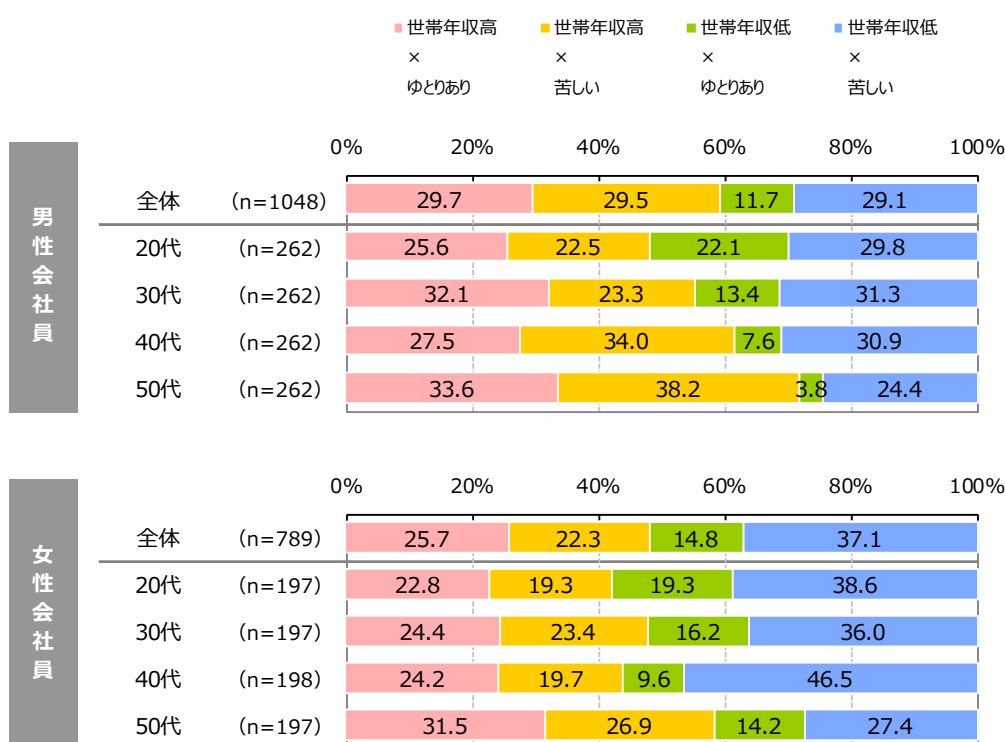
## ■ 経済的なゆとり

『世帯年収』と『日常生活のゆとり』から、経済的なゆとりを確認します。『世帯年収』は、500万円以上を“高”、500万円未満を“低”と定義し、『日常生活のゆとり』は、「大いにゆとりがある」+「まあまあゆとりがある」を“ゆとりあり”、「大変苦しい」+「やや苦しい」を“苦しい”と定義します。それぞれを掛け合わせ、経済的なゆとりにおいて、4層のグループを作成しました。

男性会社員では、「世帯年収低×ゆとりあり」層が11.7%と最も少なく、他3層はいずれも3割程度を占めています。年代別にみると、20代において「世帯年収低×ゆとりあり」層が22.1%を超え、他の年代よりも高くなっています。未婚率の高い20代は、世帯年収が低くても、ある程度ゆとりを持って生活できていることが分かります。一方で、高齢になるほど、「世帯年収高×苦しい」の割合が高くなっているのが特徴です。

女性会社員では、「世帯年収低×苦しい」が37.1%とボリュームゾーンになっており、男性に比べて生活逼迫層が多いのが特徴です。年代別にみると、40代において「世帯年収低×苦しい」が46.5%を占め、他の年代よりも高くなっています。一方、50代は「世帯年収高×ゆとりあり」が31.5%を占めており、他の年代に比べて富裕層が多い傾向にあります。

設問：“お小遣い”面からみて、この一年間のあなたの日常生活はいかがですか？



## ■ ゆとりがある層／ない層のプロファイル比較

また、“お小遣い”面からみて、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」を、会社員全体と比較したものを次頁に掲載します。ここから、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」がどのような方なのかを確認します。

男性会社員の「ゆとりがある層」は、20代・30代がやや多く、若年層寄りの傾向がみられます。また、全体に比べて、個人年収は50万円以上、世帯年収では100万円近く高い結果となり、収入自体の多さが分かります。一方、「ゆとりがない層」は、40代・50代がやや多く、個人年収・世帯年収ともに、全体よりも低い結果でした。

女性会社員の「ゆとりがある層」は、50代がやや多く、既婚・子なし世帯が全体に比べて5%高くなっています。個人年収・世帯年収も全体より高く、自身の自由に使えるお金に余裕があることが推測されます。

	男性社員 全体		ゆとりがある層		ゆとりがない層	
	(n=1,048)	100%	(n=434)	41.4%	(n=614)	58.6%
年齢	■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 25.0% 25.0% 25.0% 25.0%		■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 28.8% 27.4% 21.2% 22.6%		■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 22.3% 23.3% 27.7% 26.7%	
年収	個人年収 <b>496</b> 万円 世帯年収 <b>643</b> 万円		個人年収 <b>563</b> 万円 世帯年収 <b>738</b> 万円		個人年収 <b>449</b> 万円 世帯年収 <b>575</b> 万円	
家族構成	■ 未婚 ■ 既婚 ■ 既婚 ■ 既婚 ■ 既婚 子なし 子なし 子あり 子あり 共働き 主婦/無職 共働き 主婦/無職 44.0% 10.3% 5.2% 23.8% 16.8		■ 未婚 ■ 既婚 ■ 既婚 ■ 既婚 ■ 既婚 子なし 子なし 子あり 子あり 共働き 主婦/無職 共働き 主婦/無職 46.1% 12.2% 5.3% 22.4% 14.1		■ 未婚 ■ 既婚 ■ 既婚 ■ 既婚 ■ 既婚 子なし 子なし 子あり 子あり 共働き 主婦/無職 共働き 主婦/無職 42.5% 9.0% 5.0% 24.8% 18.7	

	女性社員 全体		ゆとりがある層		ゆとりがない層	
	(n=789)	100%	(n=320)	40.5%	(n=469)	59.4%
年齢	■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 25.0% 25.0% 25.1% 25.0%		■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 25.9% 25.0% 20.9% 28.1%		■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 24.3% 24.9% 27.9% 22.8%	
年収	個人年収 <b>300</b> 万円 世帯年収 <b>578</b> 万円		個人年収 <b>347</b> 万円 世帯年収 <b>703</b> 万円		個人年収 <b>268</b> 万円 世帯年収 <b>492</b> 万円	
家族構成	■ 未婚 ■ 既婚 ■ 既婚 子なし 子あり 64.5% 15.8% 19.6%		■ 未婚 ■ 既婚 ■ 既婚 子なし 子あり 60.9% 20.9% 18.1%		■ 未婚 ■ 既婚 ■ 既婚 子なし 子あり 67.0% 12.4% 20.7%	



## 【5】 お小遣いの使いみち、やりくり術

- ▶ お小遣いの使いみちトップ3は、男性会社員は「昼食代」が50.0%、「飲み代」が28.2%、「趣味の費用」が27.0%。女性会社員は「身だしなみのための費用」が46.2%、「昼食代」が43.7%、「携帯電話代」が41%
- ▶ 79.3%の男性会社員がお小遣い面で何らかのやりくりを実施しており、「昼食費を安くする」が昨年同様トップ。女性会社員は88.8%がお小遣いのやりくりをしており、「弁当を持参する」が最も高い
- ▶ お小遣いアップの可能性では、男女ともに全世代で「変わらない(現状維持)」が6割前後

### ■ 必要不可欠な使いみちと必要額(月額)

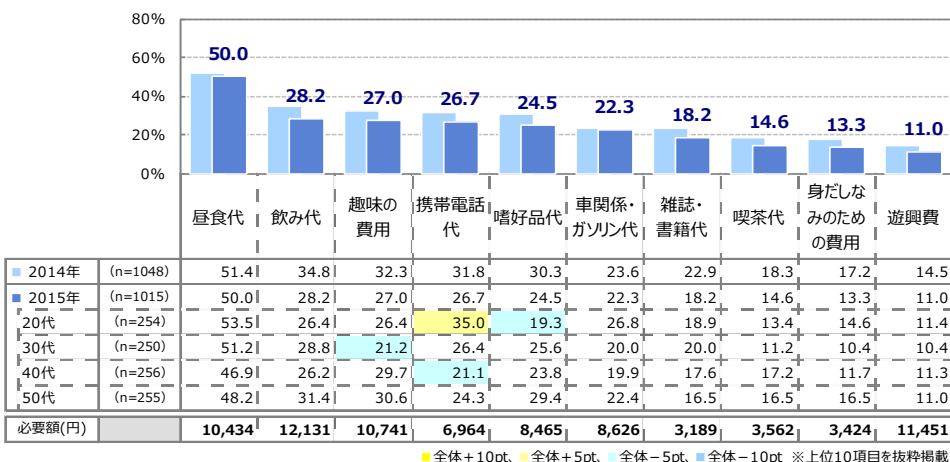
お小遣いの使いみちとして必要不可欠な項目を、上位10項目抜粋したものが以下となります。

男性会社員では、「昼食代」が他項目に比べて20%以上高く、昨年同様トップとなりました。「昼食代」の必要額は平均10,434円です。なお、必要額が最も高いのは、必要不可欠な項目順位としては2番目に高い「飲み代」となっています。また、昨年に比べると、スコアが低下している項目が多い中、「昼食代」、「車関係・ガソリン代」は昨年と同水準となっています。

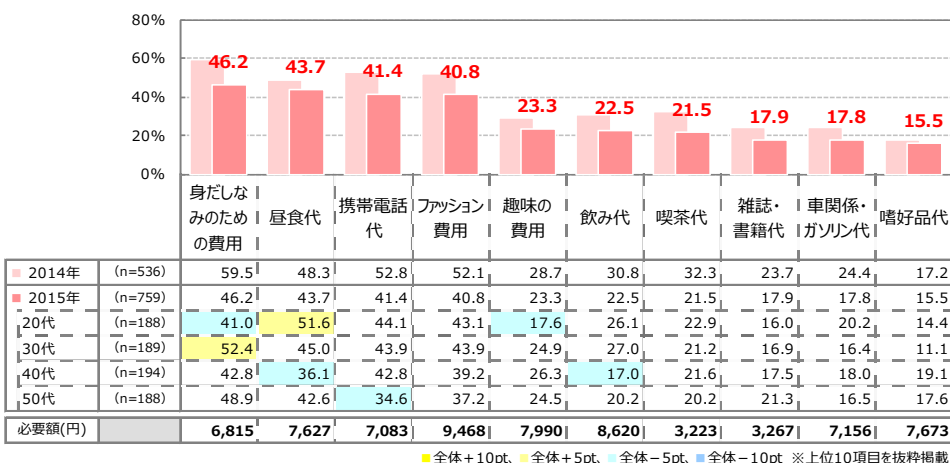
女性会社員では、「身だしなみのための費用」が46.2%で最も高く、以下「昼食代」、「携帯電話代」、「ファッション費用」が40%台で続きます。ただし、「身だしなみのための費用」、「携帯電話代」、「ファッション費用」は、昨年から10%以上スコアが低下している点が特徴的です。必要額が最も高いのは、「ファッション費用」で9,468円という結果となりました。

設問：あなたの“お小遣い”の使いみちとして、必要不可欠なものは何ですか？  
また、その項目の月々に必要な金額をお答えください。

#### 男性会社員



#### 女性会社員



## ■ お小遣いのやりくりと節約術

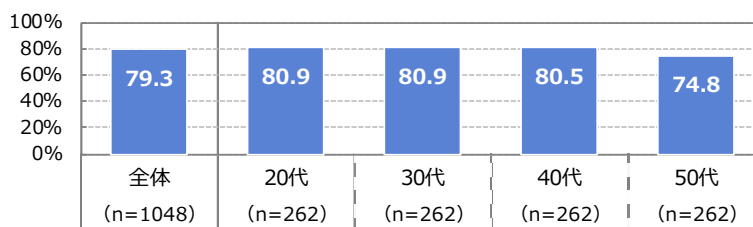
男性社員における、お小遣いのやりくり実施率は79.3%と、比較的多くの方が、何かしらの節約策を実行されていることが分かります。具体的なやりくり術には、「昼食費を安くする」、「外で飲む回数を減らす」、「衝動買いをしない」などが上位に挙げられます。飲食に関する項目が上位に挙がる点は、前項の『必要不可欠な使いみちにおける必要額』での昨年比とも連動しており、今年は飲食への出費を抑える傾向にあるようです。また、年代別では、20代で他の年代とは異なる傾向がみられます。30代～50代は、「外で飲む回数を減らす」、「衝動買いをしない」といった“行動を慎む”意識が上位に挙がるのに対し、20代は、「弁当を持参する」、「タクシーなどに乗らない」、「水筒を持参する」といった“自らの努力”で成し遂げる項目が上位に挙がっています。

女性社員におけるやりくり実施率は、男性よりも10%近く高く、ほとんどの方が節約策を実行しています。具体的なやりくり術には、「弁当を持参する」、「昼食費を安くする」、「水筒を持参する」といった、オフィスでの飲食に関する節約策が上位に挙げられます。

設問：あなたは、“お小遣い”面でみて、ここ最近、やりくりをしていることがありますか。

### 男性社員

#### <やりくり実施率>



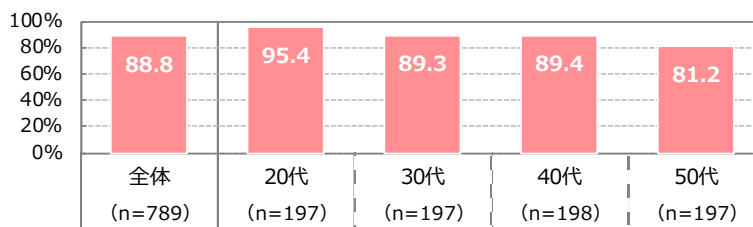
#### 具体的なやりくり術

	1位 (%)	2位 (%)	3位 (%)	4位 (%)	5位 (%)
昼食費を安くする	40.0	43.5	39.7	42.0	34.7
外で飲む回数を減らす	25.8	24.8	27.9	25.6	24.8
衝動買いをしない	25.6	22.9	27.1	26.7	25.6
弁当を持参する	24.0	28.6	24.0	24.8	18.3
水筒を持参する	23.0	25.6	22.5	22.5	21.4
タクシーなどに乗らない	20.7	26.0	16.8	20.2	19.8
少し遠くても歩く	19.3	21.8	19.1	19.1	17.2
価格が安いものを買う	19.2	14.5	19.1	24.0	19.1

※上位8項目を抜粋掲載

### 女性社員

#### <やりくり実施率>



#### 具体的なやりくり術

	1位 (%)	2位 (%)	3位 (%)	4位 (%)	5位 (%)
弁当を持参する	47.4	55.3	51.8	48.5	34.0
昼食費を安くする	44.7	55.3	48.2	43.9	31.5
水筒を持参する	38.7	45.7	44.2	32.3	32.5
衝動買いをしない	37.9	37.6	40.6	40.4	33.0
洋服・靴は安いものを買う	34.6	41.1	32.5	39.4	25.4
価格が安いものを買う	30.3	29.9	33.0	36.4	21.8
書籍・雑誌の購入を減らす	29.8	28.9	34.5	32.3	23.4
洋服・靴を買わない	27.9	27.4	33.0	28.8	22.3

※上位8項目を抜粋掲載

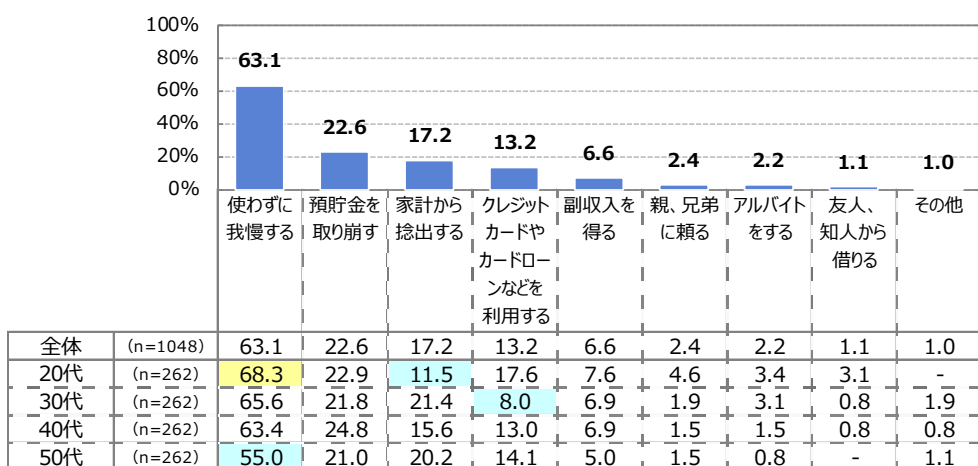
## ■ お小遣い不足時の対応

男性社員における、お小遣い不足時の対応では、「使わずに我慢する」が63.1%を超え突出しています。以降、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」といった、手持ちのお金で対応するケースが多いようです。年代別にみると、「使わずに我慢する」は、若年ほど高い傾向がみられ、20代では68.3%と、50代よりも10%以上高くなっています。

女性社員においても、男性社員と同様に、「使わずに我慢する」が62.2%と突出しています。以降、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」が続く点は共通していますが、いずれも男性に比べてやや高い傾向がみられます。一方、「クレジットカードやカードローンなどを利用する」、「副収入を得る」といった、新たにお金を入手する方法は、男性よりもやや低い結果でした。女性の方が“今あるもので何とかしよう”という意識が強いことが推察できます。

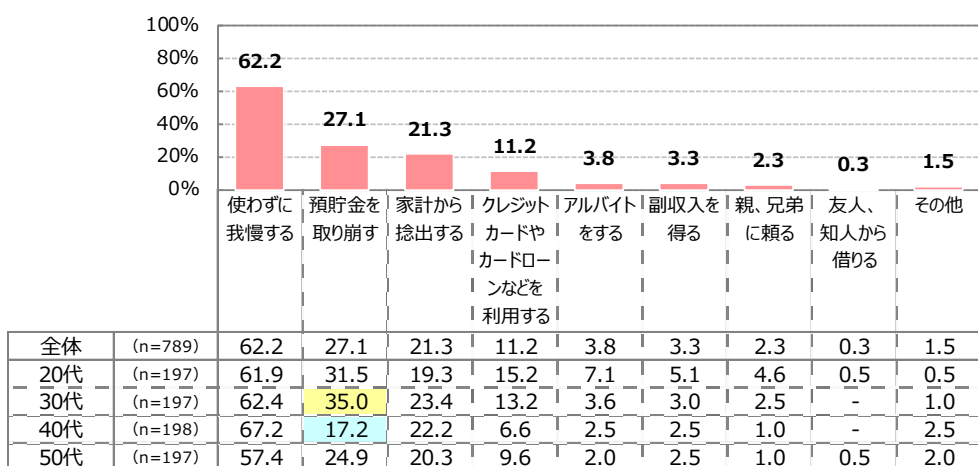
設問：“お小遣い”が足りなくなったとき、あなたはどのようにやりくりしていますか？

### 男性社員



■ 全体+10pt、■ 全体+5pt、■ 全体-5pt、■ 全体-10pt

### 女性社員



■ 全体+10pt、■ 全体+5pt、■ 全体-5pt、■ 全体-10pt

## ■ 副収入事情

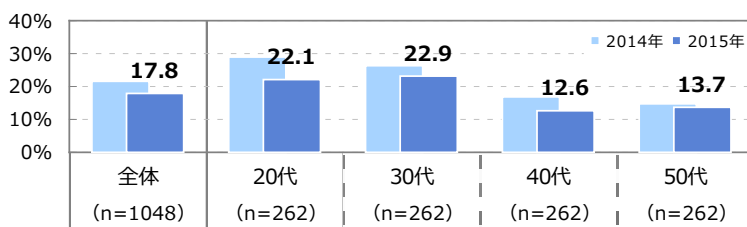
男性会社員の17.8%は副収入があり、1ヵ月あたりにおおよそ3万円強の収入額となっています。その収入源は、「ポイント・アンケートサイト」が56.7%と最も多く、その他「株式投資」、「アルバイト・副業」などが続きます。年代別にみると、20代・30代はそれぞれ22.1%、22.9%が副収入を得ており、40代・50代に比べてやや高めとなっています。ただし、20代の副収入額は2万円を下回り、他の年代に比べてやや少ない傾向です。また、50代では「不動産投資」を収入源としている割合が高く、それに伴い収入額も高い水準となっています。

女性会社員も、男性会社員とほぼ同様の傾向ですが、収入源における「ポイント・アンケートサイト」の割合が69.2%と高い点が特徴的です。

設問：あなたは給与以外に副収入がありますか？ある方は月にどのくらいの収入を得ていますか？  
どのような方法で副収入を得ていますか？

### 男性会社員

#### <副収入を得ている割合>



#### 副収入額と収入源

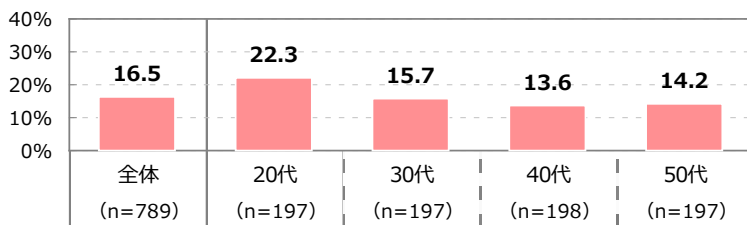
		(n=187)	(n=58)	(n=60)	(n=33)	(n=36)
1ヵ月当たりの副収入額		<b>32,470円</b>	<b>16,528円</b>	<b>37,495円</b>	<b>25,530円</b>	<b>56,139円</b>
収入源	ポイント・アンケートサイト	56.7	69.0	65.0	42.4	36.1
	株式投資	24.6	27.6	16.7	27.3	30.6
	アルバイト・副業	17.1	13.8	25.0	15.2	11.1
	FX等の外国為替取引	13.4	12.1	15.0	9.1	16.7
	ネットオークション	13.4	15.5	10.0	18.2	11.1
	ギャンブル	7.0	5.2	13.3	-	5.6
	不動産投資	6.4	3.4	3.3	6.1	16.7
	ブログ、HP開設の広告収入	4.3	5.2	-	9.1	5.6

(%)

■ 1位、■ 2位、■ 3位、■ 4位、■ 5位 ※上位8項目を抜粋

### 女性会社員

#### <副収入を得ている割合>



#### 副収入額と収入減

		(n=130)	(n=44)	(n=31)	(n=27)	(n=28)
1ヵ月当たりの副収入額		<b>30,810円</b>	<b>14,125円</b>	<b>19,323円</b>	<b>53,981円</b>	<b>47,404円</b>
収入源	ポイント・アンケートサイト	69.2	77.3	64.5	66.7	64.3
	アルバイト・副業	27.7	29.5	22.6	29.6	28.6
	株式投資	13.1	6.8	12.9	22.2	14.3
	ネットオークション	12.3	15.9	12.9	7.4	10.7
	不動産投資	6.2	2.3	3.2	3.7	17.9
	フリーマーケット	5.4	11.4	6.5	-	-
	懸賞	5.4	4.5	3.2	11.1	3.6
	FX等の外国為替取引	4.6	4.5	6.5	3.7	3.6

(%)

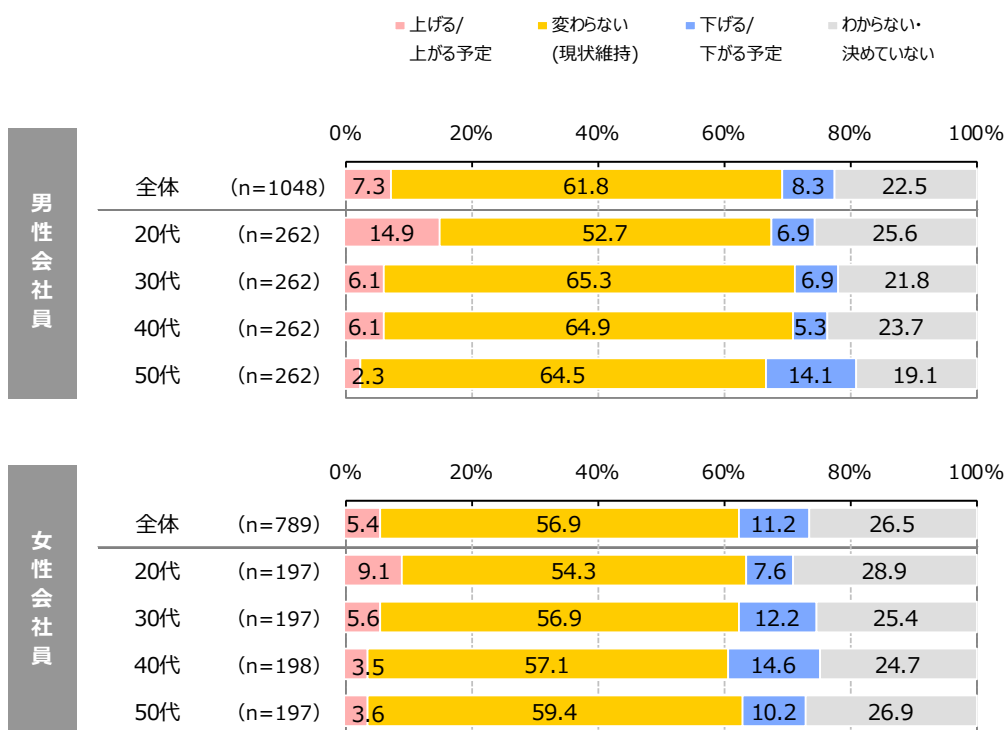
■ 1位、■ 2位、■ 3位、■ 4位、■ 5位 ※上位8項目を抜粋

## ■ お小遣いアップの可能性

男性社員における、今後のお小遣い額の予定は、「変わらない(現状維持)」が61.8%を占めます。「上げる/上がる予定」は7.3%、「下げる/下がる予定」は8.3%と、いずれも1割を下回り、変動がある層は限定的です。年代別にみると、20代で「上げる/上がる予定」が14.9%と、他の年代の2倍以上のスコアとなっています。一方、50代では「下げる/下がる予定」が14.1%と、20代とは反する結果となりました。

女性社員も、男性社員とほぼ同様の傾向で、変動のある層は限定的です。ただし、30代以上では「上げる/上がる予定」を、「下げる/下がる予定」が上回っており、男性よりも若干シビアな状況のようです。

設問：あなたの“お小遣い”は、今後アップする可能性がありますか？



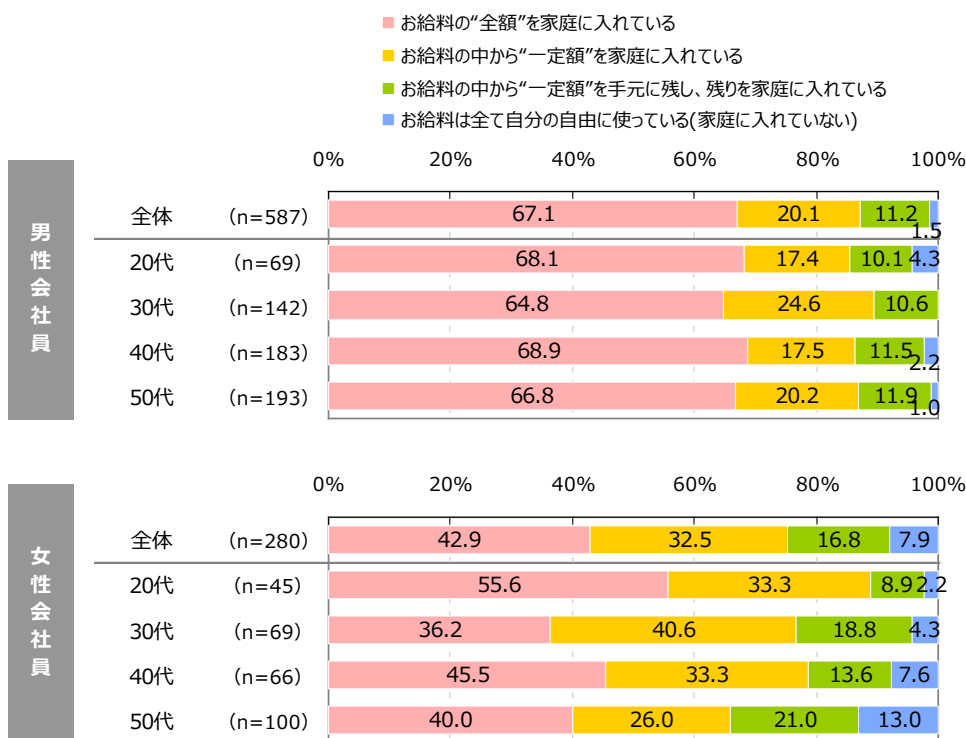
## 【6】サラリーマンの給与管理状況

- 既婚男性社員の3人に2人が「お給料の“全額”を家庭に入れている」と回答。世代間に差はなく、若い世代にもお小遣い制が浸透しているという結果に
- DINKS世帯でも、給与の全額を家庭に入れている男性社員の割合が半数以上と、ライフステージに関係なく、お小遣い制をとる世帯が多数派
- 女性社員の既婚世帯は、男性社員に比べて全額を家庭に入れる割合が低い

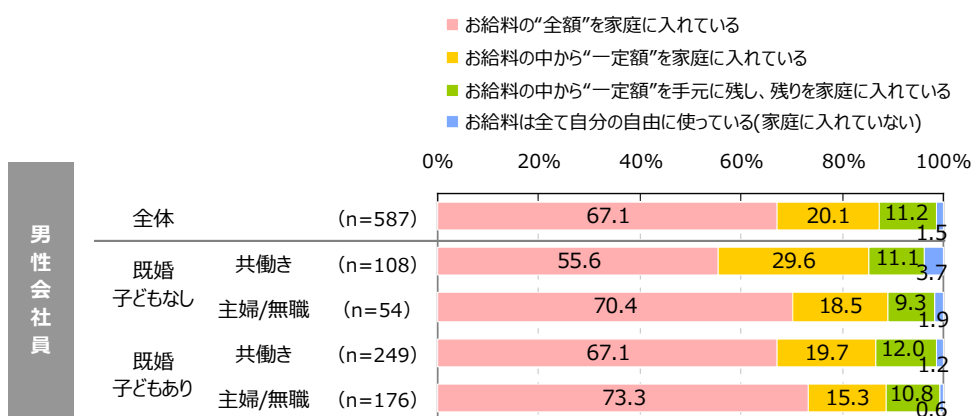
### ■ 給与管理状況

男性社員の既婚世帯では、3人に2人(67.1%)が「お給料の“全額”を家庭に入れている」という結果で、多くがお小遣い制であることがわかります。女性社員では、男性に比べて全額を家庭に入れている割合は低く、「お給料の中から“一定額”を家庭に入れている」世帯がやや多くなっています。

設問：あなたのお給料は、どのようにして管理していますか。



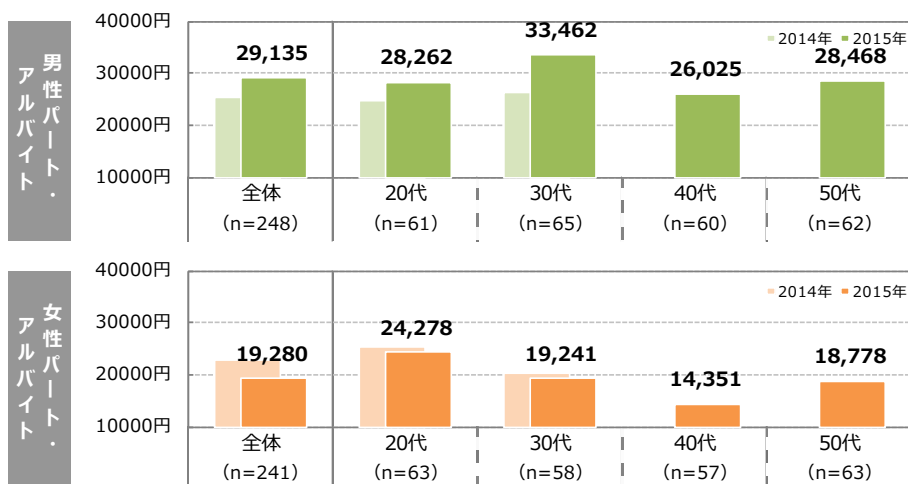
また、男性社員の給与管理状況をライフステージ別にみると、子どもの有無に関わらず、配偶者が専業主婦の世帯において、「お給料の“全額”を家庭に入れている」割合が高く、7割を超えています。また、DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)は、「お給料の中から“一定額”を家庭に入れている」世帯が29.6%を占め、全体に比べて高い傾向にあります。



## 【7】パート・アルバイトの基本データ

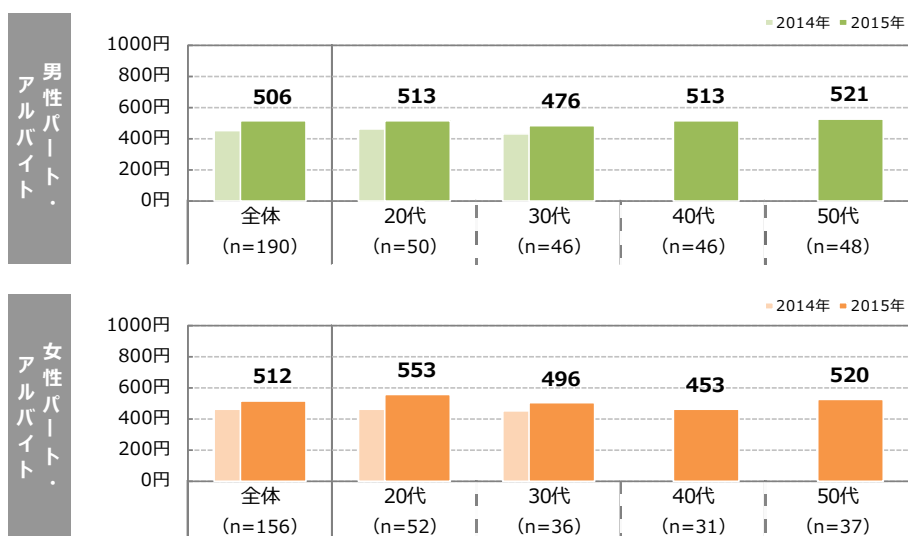
### ■ お小遣い

1カ月の平均お小遣い額



### ■ 昼食事情

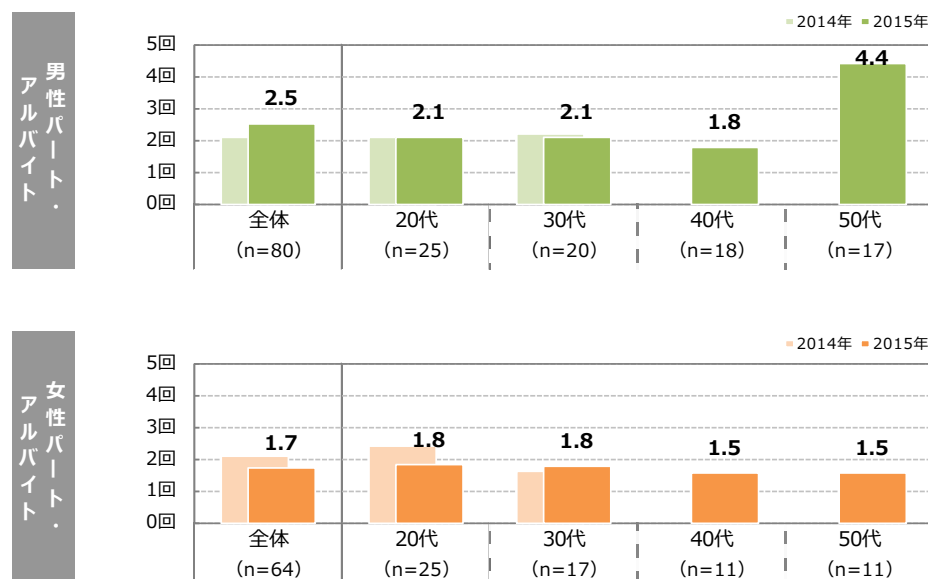
1日の平均昼食代



### ■ 飲み事情

1カ月の平均飲み回数

※n=30未満は参考値として掲載





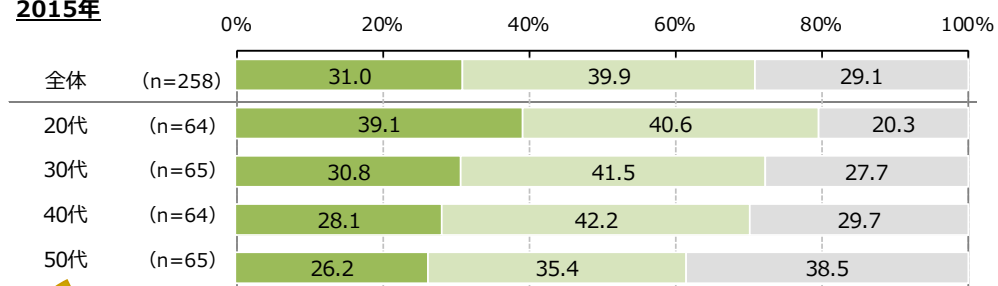
## ■ 飲み事情(つづき)

飲酒状況と1回の平均飲み代

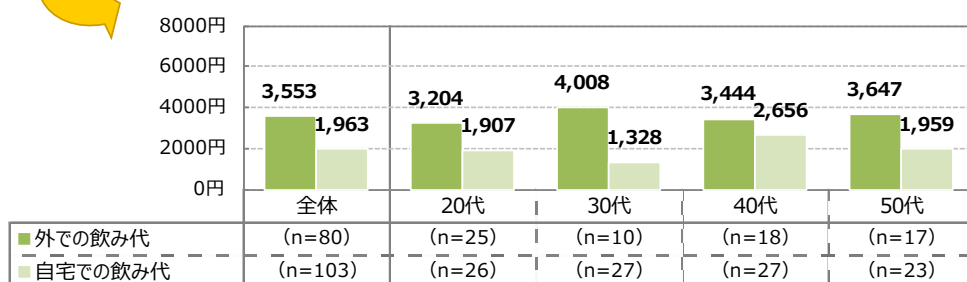
※n=30未満は参考値として掲載

### 男性パート・アルバイト

2015年

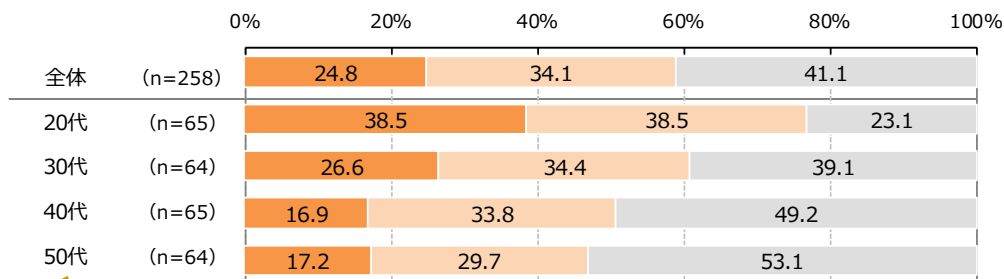


1回の平均飲み代は・・・？

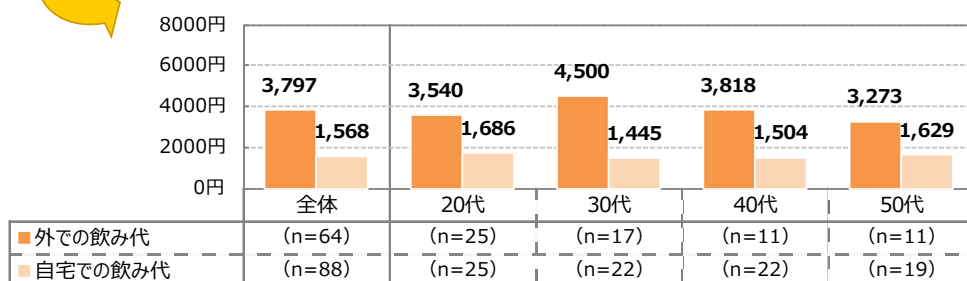


### 女性パート・アルバイト

■ 飲みに行く ■ 飲みに行かない(自宅では飲む) ■ そもそもお酒は飲まない



1回の平均飲み代は・・・？

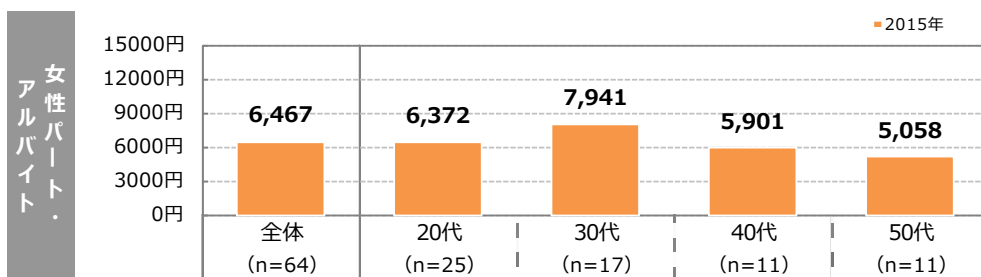
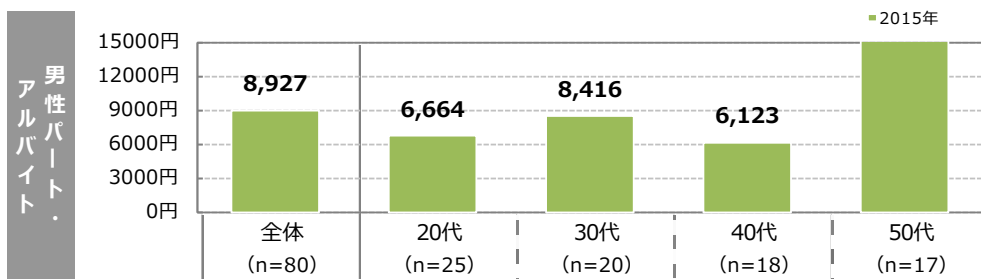


## ■ 飲み事情(つづき)

1カ月の平均飲み代

※外に飲みに行く人ベース

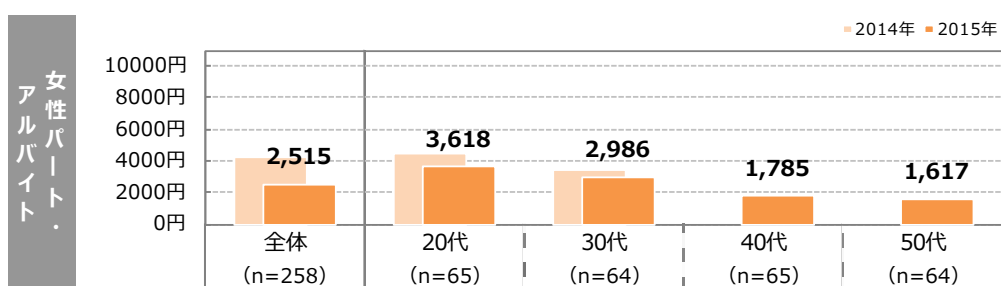
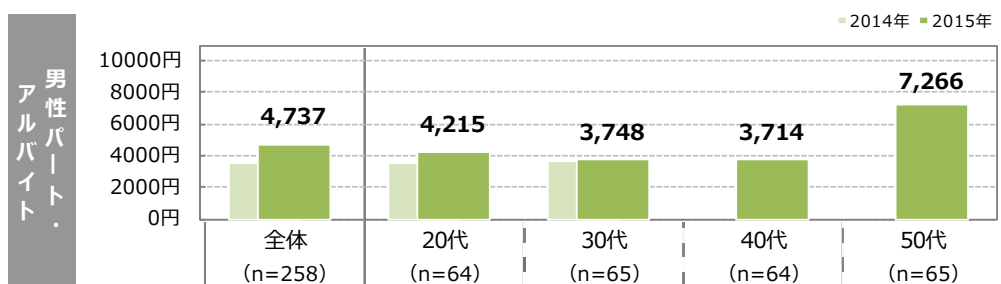
※n=30未満は参考値として掲載



※n=30未満は参考値として掲載

1カ月の平均飲み代

※全体ベース(※)



(※仕事後の飲酒状況で、「飲みに行く」「飲みに行かない(自宅では飲む)」と回答した飲酒している方だけでなく、「そもそもお酒は飲まない」と回答した方もn数に含んで算出する方法)